山梨市文化財調査報告書　第39集

阿弥陀堂遺跡

―県営畑地帯総合整備事業　日下部地区農道３号（1工区）改良工事に伴う発掘調査報告書―

２０２１.２

山梨県峡東農務事務所
山梨市教育委員会
昭和測量株式会社

序

本書は山梨県峡東農務事務所が実施する県営畑地帯総合整備事業 日下部地区農道３号（１工区）改良工事に伴って行われた阿弥陀堂遺跡発掘調査の報告書です。調査地一帯は、平安時代末期に活躍した甲斐源氏 安田義定の名字の地であることが史料により確認されており、歴史的に注目される場所であります。

今回の調査では、175㎡という狭い面積の中で、平安時代の竪穴住居６軒、中世から近世にかけて利用された水路とみられる溝１条などが発見されており、平安時代以降の本市の歴史を考察する上で貴重な資料を得ることができました。

最後になりますが、工事主体者である山梨県峡東農務事務所及び、調査を担当していただいた昭和測量株式会社の皆様をはじめ、関係各位に心から感謝申し上げ、序といたします。

令和３年２月

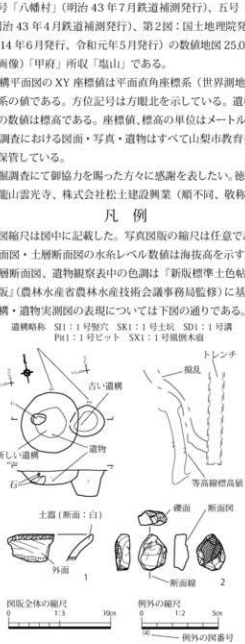
山梨市教育委員会
教育長　澤田 隆雄

例　言

1. 本報告書は、山梨県山梨市下井尻 690-3 外に所在する阿弥陀堂遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は県営畑地帯総合整備事業日下部地区農道3号（1工区）改良工事に伴う発掘調査であり、山梨市教育委員会指導の下、昭和測量株式会社が調査を実施した。
3. 調査指導は山梨市教育委員会生涯学習課の駒田真人が担当し、昭和測量株式会社の高野高潔、藤巻浩太郎が現地調査及び整理作業の支援を行った。
4. 本調査に関わる費用は山梨県峡東農務事務所が負担した。
5. 発掘調査は令和2年4月1日～5月13日にかけて実施した。整理・報告書刊行業務は令和2年11月～令和3年2月まで実施した。調査面積は 175㎡である。
6. 報告書の執筆は、第1章を駒田・高野、第2章を藤巻、第3章を高野・藤巻、第4章を高野・藤巻、第5章を高野が担当した。全体の編集は高野・藤巻、遺物写真撮影は高野が行った。
7. 挿図使用地図は、第1図：大日本帝国陸地測量部発行の1/20,000 地形図甲府近傍一号「七里村」（明治 43 年7月鉄道補測発行）、二号「勝沼」（明治 43 年7月鉄道補測発行）、四号「八幡村」（明治 43 年7月鉄道補測発行）、五号「石和」（明治 43 年4月鉄道補測発行）、第2図：国土地理院発行（平成 14 年6月発行、令和元年5月発行）の数値地図 25,000（地図画像）「甲府」所収「塩山」である。
8. 遺構平面図の XY 座標値は平面直角座標系（世界測地系）第Ⅷ系の値である。方位記号は方眼北を示している。遺構断面図の数値は標高である。座標値、標高の単位はメートルである。
9. 本調査における図面・写真・遺物はすべて山梨市教育委員会で保管している。
10. 発掘調査にて御協力を賜った方々に感謝を表したい。徳良明雄、神龍山雲光寺、株式会社松土建設興業（順不同、敬称略）

凡　例

1. 挿図縮尺は図中に記載した。写真図版の縮尺は任意である。
2. 立面図・土層断面図の水糸レベル数値は海抜高を示す。
3. 土層断面図、遺物観察表中の色調は『新版標準土色帖 1990 年版』（農林水産省農林水産技術会議事務局監修）に基づいた。
4. 遺構・遺物実測図の表現については下図の通りである。



目　次

序
例言・凡例
第1章　経過
　第1節　調査に至る経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
　第2節　調査の目的と課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
　第3節　調査の経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
第2章　遺跡の立地と歴史的環境
　第1節　地理的環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
　第2節　歴史的環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
第3章　調査の方法
　第1節　調査の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
　第2節　基本層序・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
第4章　調査の成果
　第1節　調査の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
　第2節　遺構・遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
第5章　まとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・28
写真図版

挿図目次

第1図　調査地の位置・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
第2図　周辺の遺跡分布・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
第3図　基本層序・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
第4図　調査区全体図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
第5図　1号・3号竪穴（1）遺構・・・・・・・・・・・・・・・・・11
第6図　1号・3号竪穴（2）遺構・・・・・・・・・・・・・・・・・12
第7図　2号竪穴　遺構・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
第8図　4号・6号竪穴　遺構・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
第9図　5号竪穴　遺構・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15
第10図　1号溝・1号土坑・6号ピット　遺構・・・・・・・・・・16
第11図　1号風倒木痕・1号～5号ピット　遺構・・・・・・・・17
第12図　遺物包含層　出土分布・・・・・・・・・・・・・・・・・18
第13図　1号竪穴（1）遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・19
第14図　1号竪穴（2）・2号竪穴　遺物・・・・・・・・・・・・20
第15図　3号竪穴・4号竪穴・5号竪穴（1）遺物・・・・・・21
第16図　5号竪穴（2）遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・22
第17図　6号竪穴・1号溝・1号風倒木痕　遺物・・・・・・・23
第18図　遺物包含層　遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・24
第19図　周辺の遺跡と条里地割・・・・・・・・・・・・・・・・・30

表目次

表1　周辺の遺跡一覧表・・・・・5　表2　遺物観察表・・・・・・・・・・・25

写真図版目次

遺跡全景・・・・・・・・・・図版1～2　土坑・風倒木痕 遺構・・・図版7
1・3号竪穴 遺構・・図版3～4　1号竪穴 遺物・・・・・・図版8～9
2号竪穴 遺構・・・・・・図版4～5　2・3号竪穴 遺物・・・・・・図版9
4・6号竪穴 遺構・・図版5　4～6号竪穴・溝 遺物・・図版10
5号竪穴 遺構・・・・・・図版5～6　風倒木痕・遺物包含層 遺物
1号溝 遺構・・・・・・・・図版6～7　・・・・・・・・・・図版11

第１章　経過

第１節　調査に至る経過

山梨県峡東農務事務所により県営畑地帯総合整備事業日下部地区農道３号（1 工区）工事について協議があり、計画範囲内に阿弥陀堂遺跡が存在していることから、埋蔵文化財包蔵地発掘の通知が山梨県峡東農務事務所より山梨市教育委員会に提出され、令和元年８月 22 日から９月３日にかけ山梨市教育委員会による試掘調査が行われた。

調査結果を基に、山梨県峡東農務事務所と山梨市教育委員会で保存協議を行い、遺構・遺物が確認された範囲 175㎡について、記録保存のための本発掘調査を行うこととなった。調査は、峡東農務事務所が昭和測量株式会社に委託し、令和２年２月 12 日に山梨市教育委員会を含めた三者協定を締結して、山梨市教育委員会が調査を管理することとなった。令和２年２月 17 日に文化財保護法 92 条の通知が昭和測量株式会社から山梨市教育委員会に提出され、令和２年３月４日に県教育委員会から昭和測量株式会社へ埋蔵文化財発掘調査についての通知があり、令和２年４月１日から調査に着手する運びとなった。

第２節　調査の目的と課題

調査の目的は山梨市日下部地区の農道改良工事に伴い遺構・遺物の記録保存を行うことである。調査地は安田義定が開基したとされる雲光寺と近接している。また「条里」区画の痕跡が見られる地域である。今回の調査では、このような地域性を考慮した調査が実施できるかが課題である。

第３節　調査の経過

阿弥陀堂遺跡の調査は山梨市教育委員会の指導のもとに昭和測量株式会社が主体となって実施した。

山梨市教育委員会：指導　駒田真人。昭和測量株式会社：調査担当　髙野髙潔。調査補助員　藤巻浩太郎。助言　新津健。発掘補助員　朝倉訓、雨宮克好、内藤敏夫、藤原由香、三木一恵。空中写真撮影　堀内太一、野村亮太。整理補助員　浅川悠起子、今福ともみ、尾川正美、垣内律子、佐野香織、三木一恵。

発掘調査現場作業は令和２年４月１日に開始し、令和２年５月 13 日に終了した。調査面積は 175㎡である。詳細は以下のとおりである。４月１日、調査区北側の重機による表土除去開始。２日、遺物包含層掘削開始。10 日、遺構掘削開始。22 日、空中写真撮影実施。23 日、調査区北側終了確認実施。24 日、調査区北側の重機による埋め戻し、および調査区南側の表土除去を開始。28 日、調査区南側の遺物包含層掘削開始。５月２日、遺構掘削開始。11 日、ポール撮影実施。12 日、調査区南側終了確認実施、重機による埋め戻しを開始。13 日、現場作業終了。

整理作業は令和２年 11 月 16 日に開始し、令和３年２月 26 日に終了した。出土遺物の水洗、注記、接合、実測遺物の選定、実測、トレース、写真撮影、図版作成、編集・版下データ作成を行い、報告書を刊行した。

第２章　遺跡の立地と歴史的環境

第１節　地理的環境

山梨県山梨市は甲府盆地の北東部から県境の関東山地までを占めている。阿弥陀堂遺跡が所在する日下部地区は山梨市の南東部にあり、甲府盆地を南西方向に流れる笛吹川左岸に位置している。阿弥陀堂遺跡は笛吹川の開析扇状地の扇央部に立地し、標高は約 395 mである。阿弥陀堂遺跡の近辺には安田義定が開基したとされる雲光寺が所在し、義定一家の墓と伝えられる県指定有形文化財の五輪塔群がある。

日下部地区では、甲府盆地の北東地域に広く分布する「峡東条里」と八幡地区を含む笛吹川右岸地域に分布する「八幡条里」が接しており、両条里の干渉により基軸に若干の乱れが生じている。調査前の現況は緩やかな傾斜地にブドウ・モモ・カキの栽培を主とした果樹畑であった。また本調査地の南を青梅街道が走っており、甲州道中の裏街道として酒折村と内藤新宿を往来できたことから一帯の交通の要所ともなっている（第１図）。

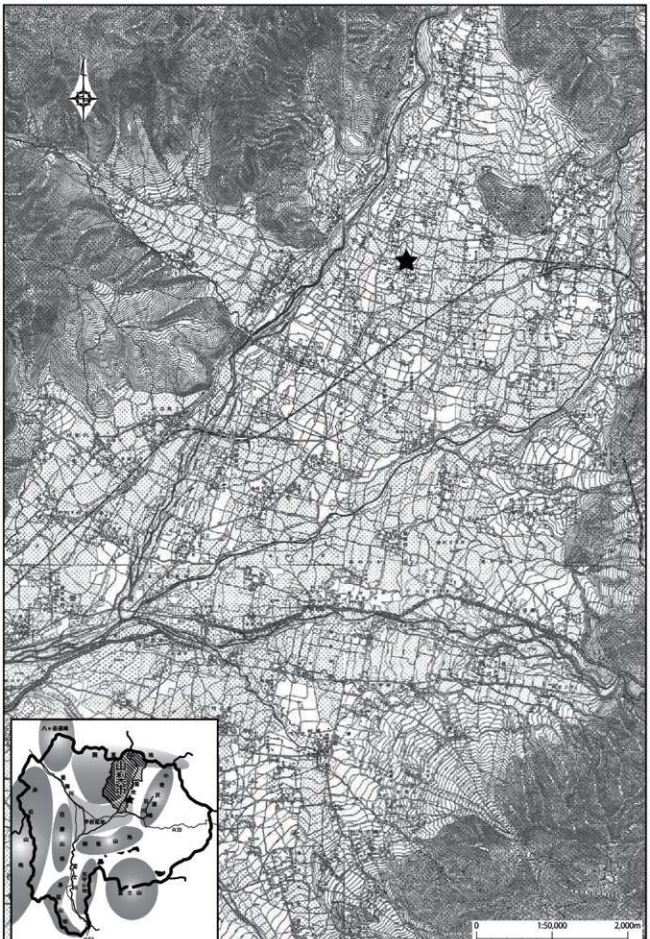
第２節　歴史的環境

山梨市域に存在する遺跡は 196 を数えており（令和元年８月現在）、中でも奈良・平安時代の遺跡が多数を占めている。阿弥陀堂遺跡（１）の所在する日下部地区では縄文時代及び古墳・奈良・平安時代の遺跡が点在している。調査地の近辺には宮ノ前（七日子）遺跡（２）があり、縄文時代中期の石囲炉や平安時代の住居跡及び遺物が出土している。本調査地の周辺には縄文時代の遺跡として土器の出土した下弥勒遺跡（４）や東後屋敷遺跡（25）、立像型土偶が確認された高畑遺跡（23）などの遺跡が分布している。古墳時代の遺跡では宮ノ西遺跡（７）、相畑北遺跡（11）、足原田遺跡（59）などの遺跡が分布している。また、周辺地域にはふじ塚古墳（68）、平塚古墳（71）、稲荷塚古墳（73）等の古墳が分布している。平安時代の遺跡では竪穴住居跡や掘立柱建造物跡が発見された日下部遺跡（20）をはじめ、土師器焼成遺跡が確認されている荒神山窯跡（80）など多数の遺跡が分布している。中・近世の遺跡では安田義定館跡（127・128）や窪八幡神社（125）、上野氏屋敷（133）、清水陣屋跡（134）などの遺跡が分布することから、日下部地区及び周辺地区は古代甲斐国において中心的な地域の一つであったことがわかる。

なお、窪八幡神社については本殿、拝殿を含む９棟 11 件が国指定重要文化財、上野氏屋敷跡に建つ主屋は県指定遺跡であり、本調査区の南 1.5km 付近にある国宝の仏殿を有する清白寺や隣接し県指定史跡を有する連方屋敷（126）など、歴史的環境に恵まれた地である（第２図）。

参考文献

山梨県　1998　『山梨県史　資料編１　原始・古代１考古（遺跡）』
山梨県　2004　『山梨県史　通史編１　原始・古代』
山梨市　2004　『山梨市史　史料編　近世』
山梨市　2005　『山梨市史　資料編　考古・古代・中世』
山梨市　2005　『山梨市史　文化財・社寺編』
山梨市　2007　『山梨市史　通史編　上巻』



★調査地（阿弥陀堂遺跡）

第１図　調査地の位置

★ 調査地（阿弥陀堂遺跡）

第２図　周辺の遺跡分布

1：25,000

表1　周辺の遺跡一覧表

№	遺跡名	種別	時代	所在地	№	遺跡名	種別	時代	所在地
1	阿弥陀堂遺跡	散布地	縄文/古墳/奈良/平安	下井尻字阿弥陀堂	70	榎本遺跡	散布地	古墳	鴨居寺字榎本
2	宮ノ前(七日子)遺跡	集落跡	縄文/古墳/奈良/平安	七日市場字宮ノ前	71	平塚古墳	古墳	古墳	上神内川字平塚
3	御屋敷南遺跡	散布地	縄文/平安	下井尻字御屋敷	72	日下部明院前遺跡	散布地	古墳	上神内川字水上
4	下怎和遺跡	散布地	縄文/平安	七日市場字下怎和	73	稲荷塚古墳	散布地	古墳	上神内川字稲荷
5	天神原北遺跡	散布地	縄文/平安	七日市場字天神原	74	杉ノ木遺跡	集落跡	古墳	下神内川字杉木
6	西ノ窪遺跡	散布地	縄文/平安	七日市場字西ノ窪	75	長園寺前古墳	古墳	古墳	上万力字園尻
7	宮ノ西遺跡	散布地	古墳/中世	下井尻字宮ノ西	76	宗流西遺跡	散布地	古墳	下石森字宗流
8	十王堂遺跡	散布地	奈良/平安	七日市場字十王堂	77	上黒木遺跡	散布地	奈良/平安/中世	上石森字上黒木
9	神明遺跡	散布地	奈良/平安	七日市場字神明	78	大塚遺跡	散布地	奈良/平安	小塚東字大塚
10	塩沢遺跡	散布地	中世/近世	下井尻字塩沢	79	原ノ前遺跡	散布地	奈良	万力字原ノ前
11	相撲北遺跡	散布地	古墳	下井尻字相撲	80	荒神山遺跡	窯跡	平安/中世	東字荒神山
12	御屋敷北遺跡	散布地	平安	下井尻字御屋敷	81	三ノ所遺跡	集落跡	平安/中世	三ノ所字寺平
13	狐塚遺跡	散布地	平安	下井尻字狐塚	82	浅間遺跡	散布地	平安/中世	三ノ所字浅間
14	天神原遺跡	散布地	平安	下井尻字天神原	83	大蟻遺跡	散布地	平安/中世	三ノ所字大蟻
15	天神原南遺跡	散布地	平安	七日市場字天神原	84	稲荷翼遺跡	散布地	平安/中世	北字稲荷翼
16	中尻遺跡	散布地	平安	七日市場字中尻	85	篠八幡神社旧社地跡	社寺跡	平安/中世	南
17	相撲南遺跡	散布地	中世	下井尻字相撲	86	三宮寺遺跡	散布地	平安/中世	正徳寺字三宮寺
18	兄川同宋遺跡	その他	旧石器	南字上兄川兄川同川	87	大ツ塚遺跡	散布地	平安/中世	正徳寺字大ツ塚
19	大林北遺跡	散布地	縄文/弥生/古墳/平安/中世	上黒屋字大林	88	三ノ所菊木遺跡	散布地	平安	三ノ所字菊木
20	日下部遺跡	集落跡	縄文/弥生/古墳/平安/中世	小屋東字大覚塚	89	久保西遺跡	散布地	平安	東字久保
21	江曽屋遺跡	集落跡	縄文/古墳/平安	江曽屋字片瀬	90	東反保遺跡	集落跡	平安	小屋東字東反保はか
22	大工北遺跡	散布地	縄文/古墳/平安	大工字日影	91	上之割八王子遺跡	散布地	平安	上之割字八王子
23	高畑遺跡	集落跡	縄文/古墳/平安	大野字高畑	92	久保遺跡	散布地	平安	東字久保
24	立石遺跡	集落跡	縄文/奈良/平安	小屋東字立石	93	中下西遺跡	散布地	平安	東字中下
25	東後屋敷遺跡	集落跡	縄文/奈良/平安	東後屋敷字小屋敷	94	藤橋遺跡	集落跡	平安	北字中橋橋はか
26	屋敷前遺跡	散布地	縄文/平安/中世	下石森字屋敷前	95	切通東遺跡	散布地	平安	東字切通
27	堀間遺跡	集落跡	縄文/平安/中世	堀内字堀間	96	道下遺跡	散布地	平安	西字道下
28	天神前遺跡	散布地	縄文/平安/中世	正徳寺字天神前	97	切通西遺跡	散布地	平安	東字切通
29	樋木田遺跡	集落跡	縄文/古墳	小屋西字樋木田	98	梨木遺跡	散布地	平安	上之割字梨木
30	中島遺跡	散布地	縄文/平安	東字中島	99	吉原遺跡	散布地	平安	三ノ所字吉原
31	藤の木道下遺跡	散布地	縄文/平安	東字藤の木道下	100	於北南遺跡	散布地	平安	市川字於北
32	西久保遺跡	散布地	縄文/平安	小屋東字西久保	101	大塚遺跡	散布地	平安	市川字大塚
33	切通南遺跡	散布地	縄文/平安	東字切通	102	神明前遺跡	散布地	平安	市川字神明前
34	安屋敷遺跡	散布地	縄文/平安	東字安屋敷	103	平塚遺跡	散布地	平安	上神内川字平塚
35	久保遺跡	散布地	縄文/平安	東字大久保	104	原遺跡	散布地	平安	大工字原
36	上コブケ遺跡	集落跡	縄文/平安	北字上コブケ	105	宮ノ前遺跡	散布地	平安	上石森字宮ノ内
37	上石森塚越遺跡	散布地	縄文/平安	上石森字塚越	106	宮ノ上遺跡	散布地	平安	下神内川字宮ノ上
38	天神前東遺跡	散布地	縄文/平安	大野字天神前	107	前田遺跡	散布地	平安	下神内川字前田
39	下ノ原遺跡	散布地	縄文	七日市場字下ノ原	108	宗流北遺跡	散布地	平安	下石森字宗流
40	丸山遺跡	散布地	縄文	東字丸山	109	小梨遺跡	散布地	平安	堀内字小梨
41	久保田遺跡	散布地	縄文	東字久保田	110	市道遺跡	散布地	平安	大野字市道
42	村西遺跡	散布地	縄文	東字村西	111	榎本田遺跡	散布地	平安	大野字榎本田
43	諏訪遺跡	散布地	縄文	東字諏訪	112	天神前北遺跡	散布地	平安	大野字天神前
44	雷可遺跡	散布地	縄文	東字雷可	113	開之田東遺跡	散布地	平安	正徳寺字開之田
45	八王子遺跡	集落跡	縄文	小屋東字八王子	114	玉林寺遺跡	散布地	平安	正徳寺字玉林寺
46	寺ノ下遺跡	散布地	縄文	小屋西字寺ノ下	115	林遺跡	散布地	平安	正徳寺字林遺
47	新町東遺跡	散布地	縄文	三ノ所字新町東	116	下河原遺跡	その他	中世/近世	東字下河原
48	市川東遺跡	散布地	縄文	市川字神明前	117	東田遺跡	社寺跡	中世/近世	東字東田
49	上手原遺跡	散布地	縄文	上石森字上手原	118	椿堀屋敷跡	館跡	中世/近世	七日市場椿堀屋
50	植田遺跡	集落跡	縄文	市川字植田	119	西片山遺跡	その他の墓	中世/近世	北字西片山
51	市川西遺跡	散布地	縄文	市川字植田	120	切通北遺跡	その他	中世/近世	東字切通
52	市川北遺跡	散布地	縄文	市川字平山	121	篠八幡神社社家坊守跡	社寺跡	中世/近世	北
53	鼎林遺跡	散布地	縄文	市川字鼎林	122	河野氏屋敷	その他	中世/近世	三ノ所字新町西
54	大工南遺跡	散布地	縄文	大工字井ノ久保前	123	於北北遺跡	その他	中世/近世	市川字於北
55	宗流東遺跡	散布地	縄文	下石森字宗流	124	神明前遺跡	社寺跡	中世/近世	市川字神明前
56	宗流南遺跡	散布地	弥生/古墳	下石森字宗流	125	篠八幡神社	神社	中世	北字仲町
57	堀ノ内遺跡	散布地	弥生/平安	上石森字堀ノ内	126	盛方屋敷	城館跡	中世	三ノ所字盛方
58	樋口遺跡	散布地	古墳/平安/中世	小屋東字樋口	127	安宗義定館跡	城館跡	中世	小屋東字石山
59	足原南遺跡	散布地	古墳/平安/中世	万力字足原南	128	安宗義定館跡	城館跡	中世	小屋西字八王子
60	金山林遺跡	散布地	古墳/平安	上石森字金山林	129	武田金吾屋敷跡	城館跡	中世	東後屋敷字小屋敷
61	上原遺跡	散布地	古墳/平安	中村字上原	130	松原遺跡	散布地	中世	上神内川字松原
62	開之田西遺跡	散布地	古墳/平安	正徳寺字開之田	131	城伊庵屋敷跡	城館跡	中世	上神内川字寺ノ前
63	雲林遺跡	散布地	古墳/平安	下石森字雲林	132	大野砦跡	城館跡	中世	大野字三十六
64	唐土遺跡	散布地	古墳/中世	三ノ所字唐土	133	上野氏屋敷	城館跡	近世	東字久保
65	塚越遺跡	散布地	古墳/中世	上神内川字塚越	134	清水陣屋跡	陣屋跡	近世	北字ヤウノコシ
66	柳田遺跡	集落跡	古墳	北字柳田	135	郡行場	場跡遺跡	近世	万力字正月林
67	原遺跡	散布地	古墳	三ノ所字原	136	宮土塚	宮土塚	近世	上万力字藤塚
68	ふじ塚古墳	古墳	古墳	三ノ所字原	137	鼎町川通防御郭	その他城砦郭	近世~近現代	
69	鼎出張久弥清治墓	散布地	古墳	鴨居寺字鼎治張久弥	138	井尻氏屋敷跡	城館跡	近世	下井尻字十王堂

第３章　調査の方法

第１節　調査の方法

調査区は概ね長さ 70 m、幅３mの南北に細長い形状である。調査区内の区分として北東隅（X=-32530m、Y=18860m）を起点として５m方眼のグリッドを設定した（第４図）。グリッドの呼称は南北に数字、東西にアルファベットの名称を付して「１Ａグリッド」のように称した。測量成果は世界測地系とした。

表土掘削はバックホウ 0.15㎥および 0.18㎥で行い、発生土は調査区内に仮置きした。表土の掘削後、人力で精査を行い、遺物包含層掘削、および遺構の検出を行った。検出遺構は順に番号を付し、人力で遺構の掘削・記録を行った。

遺物包含層及び遺構から出土した遺物は順に番号を付して、トータルステーションを使用して位置を記録し取り上げを行った。小破片については一括出土遺物として取り上げた。

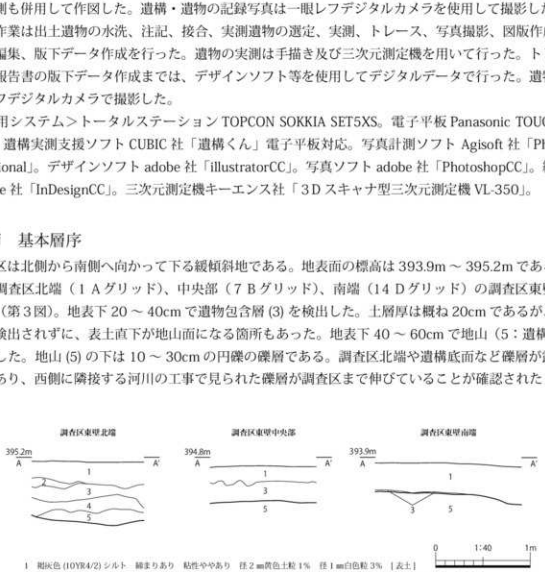
遺構平面図・セクション図・エレベーション図は、トータルステーションを使用して計測し作図した。セクション図は手書きも併用した。全体図・微細図はポール撮影やドローンによる空中撮影の写真も使用し、写真計測も併用して作図した。遺構・遺物の記録写真は一眼レフデジタルカメラを使用して撮影した。

整理作業は出土遺物の水洗、注記、接合、実測遺物の選定、実測、トレース、写真撮影、図版作成、調査報告書編集、版下データ作成を行った。遺物の実測は手描き及び三次元測定機を用いて行った。トレースから調査報告書の版下データ作成までは、デザインソフト等を使用してデジタルデータで行った。遺物写真は一眼レフデジタルカメラで撮影した。

＜使用システム＞トータルステーション TOPCON SOKKIA SET5XS。電子平板 Panasonic TOUGHBOOK CF-19。遺構実測支援ソフト CUBIC 社「遺構くん」電子平板対応。写真計測ソフト Agisoft 社「PhotoScan Professional」。デザインソフト adobe 社「illustratorCC」。写真ソフト adobe 社「PhotoshopCC」。編集ソフト adobe 社「InDesignCC」。三次元測定機キーエンス社「３Ｄスキャナ型三次元測定機 VL-350」。

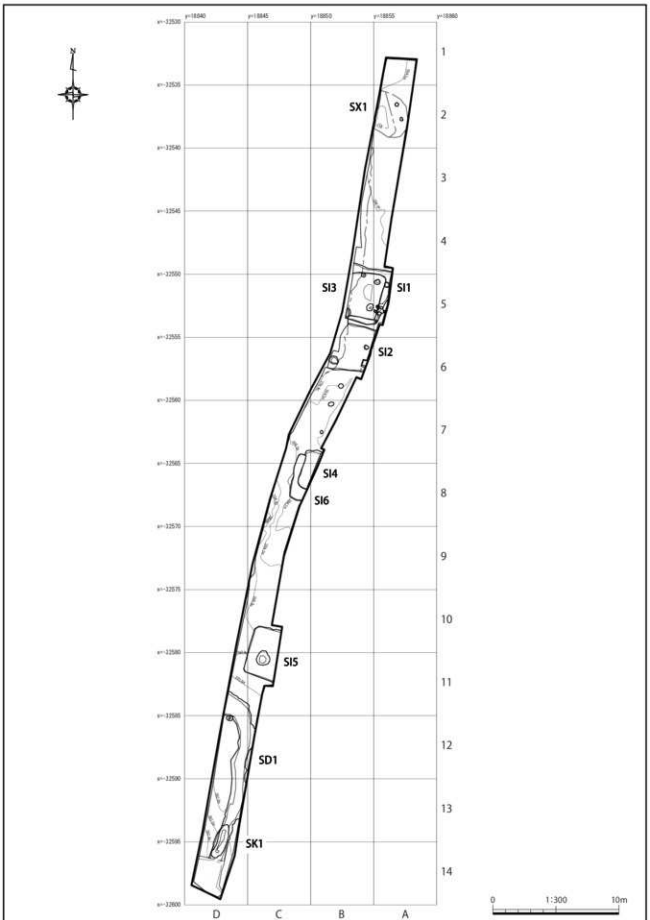
第２節　基本層序

調査区は北側から南側へ向かって下る緩傾斜地である。地表面の標高は 393.9m ～ 395.2m である。基本層序は調査区北端（１Ａグリッド）、中央部（７Ｂグリッド）、南端（14 Ｄグリッド）の調査区東壁面で確認した（第３図）。地表下 20 ～ 40cm で遺物包含層 (3) を検出した。土層厚は概ね 20cm であるが、遺物包含層が検出されずに、表土直下が地山面になる箇所もあった。地表下 40 ～ 60cm で地山（5：遺構確認面）を検出した。地山 (5) の下は 10 ～ 30cm の円礫の礫層である。調査区北端や遺構底面など礫層が露出する箇所があり、西側に隣接する河川の工事で見られた礫層が調査区まで伸びていることが確認された（写真図版２）。



1　褐灰色 (10YR4/2) シルト　締まりあり　粘性ややあり　径２mm黄色土粒 1%　径１mm白色粒 3%　［表土］
2　にぶい黄褐色 (10YR5/4) シルト　締まりあり　粘性ややあり　径１mm黄色粒 10%　［表土（水田床土黄色）］
3　黒褐色 (10YR3/1) シルト　締まりあり　粘性ややあり　径２mm黄色粒 2%　径１mm白色粒 1%　［包含層］
4　褐色 (10YR4/6) シルト　締まりあり　粘性ややあり　径１mm白色粒 2%　［地山漸移層］
5　黄褐色 (10YR5/6) シルト　締まりあり　粘性ややあり　［地山（遺構確認面）］

第３図　基本層序


N
SX1
SI1
SI2
SI3
SI4
SI5
SI6
SD1
SK1
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
D
C
B
A
0
1:300
10m

第４図　調査区全体図

第４章　調査の成果

第１節　調査の概要（第１～４図、写真図版１・２）

発掘調査は山梨県峡東農務事務所による農道改良工事に伴い行われた。道路用地である調査区の規模は概ね長さ 70 m、幅３mの南北に細長い形をしており、西側には並行する水路が流れている。標高は 393.9m ～ 395.2m の地点で、南北に高低差が 1.3 mあり、傾斜度が約１度の北から南へ下る緩やかな斜面地である。現状は果樹畑で、以前は水田である。５m方眼のグリッド（１Ａから 14 Ｄ）を設定し調査を行った。

阿弥陀堂遺跡は主に縄文時代・古墳時代・奈良時代・平安時代の散布地として、およそ南北 400 m、東西 600 mの規模で周知されている。今回の調査地点では平安時代の竪穴６基（ＳＩ１～６）、中世の溝１条（ＳＤ１）が出土した。東西に幅の狭い調査区形状のため遺構の検出範囲は部分的であるが、竪穴は６基とも三方向の壁面を検出している。また、溝は約 15 mに渡り検出している。竪穴からは 10 世紀後半から 11 世紀前半の土師器が出土し、１号竪穴ではカマドを検出した。溝からは中世の青磁、陶器、土器が出土した。溝の底面で土坑１基（ＳＫ１）を検出した。また、風倒木痕（ＳＸ１）と遺物包含層からは縄文時代前期末～中期初頭、後期前葉の土器が出土した。出土遺物の総量は整理箱で４箱分である。

第２節　遺構・遺物

【竪穴】

１号竪穴（ＳＩ１）・３号竪穴（ＳＩ３）（第５・６、13 ～ 15 図、写真図版３・４、８・９）

１号竪穴と３号竪穴は重複しており４Ａ～５Ｂグリッドに位置する。重複関係は１号竪穴が新しく、３号竪穴が古い。１号竪穴は３号竪穴を埋めた上に、やや軸をずらして、ひと回り大きく掘り込まれている。双方とも西側は水路の古い石積みに撹乱され調査区外へと続いている。１号竪穴は北東角も調査区外である。１号竪穴では東壁の南東角でカマドを検出し、四方にピットを検出した。３号竪穴は北東と南東にピットを検出した。１号竪穴は軸が N-12°-E で、規模が 4.5 mの方形、遺構確認面からの深さは 15 ～ 30cm である。カマドのある東壁がやや曲がるためカマドの軸は N-22°-E である。焚口から煙道の長さ 90cm、袖の幅 90cm、火床部から天上石上部までの高さ 50cm である。円礫を骨材とし黄褐色の粘土で塗り固めて構築されている。火床部と煙道上部に焼土範囲を検出したが、内壁面は袖石が露出しており、内面の焼けた粘土壁はカマド使用時に剥がれ落ちていたと考えられる。火床部奥部で支柱穴を検出した。長さ 12cm、幅９cm の楕円形で深さ 20cm で、甕と坏の破片が出土している。堆積土に締まりがなく空洞が残っていたため、支柱石を引き抜いた後に、土器や崩落土が細穴に少し入り込み、穴に蓋をしていたと思われる。３号竪穴は軸が N-10°-E で、規模が 3.6 mの方形、１号竪穴床面からの深さは 10cm である。１号竪穴の検出面中央で焼土範囲を確認した。遺構が埋まった時点で何らかの火を焚く行為が行われたと考えられる。

１号竪穴からは多数の遺物が出土している。遺物は平安時代の土師器が主体である。土師器坏・脚高高台坏・皿・甕・羽釜、灰釉陶器瓶、砥石が出土している。出土地点を記録した遺物は 148 点で、その内 21 点を図示した。１～ 18 は土師器である。１・２は皿で口唇部が肥厚している。３・４は坏である。５～７は脚高高台付坏である。８は蓋である。９・10 は鉢である。11 ～ 17 は甕で、11 ～ 13 は小形である。18 は羽釜である。19 は灰釉陶器瓶の底部である。20・21 は砥石である。よく使いこまれ作業面が湾曲し、非常に平滑である。仕上げ砥と思われる。10C 末から 11C 初頭の遺構と思われる。３号竪穴からの出土遺物は少量である。遺物は平安時代の土師器坏・甕である。出土地点を記録した遺物は 12 点で、その内４点を図示した。１・２は坏である。３・４は甕である。10C 末から 11C 初頭と思われる。

２号竪穴（ＳＩ２）（第７、14 図、写真図版４・５、９）

５Ａ～６Ｂグリッドに位置する。１号竪穴の南壁から 30cm 隔てた南側に位置する。他の遺構との重複

関係はない。西側は水路の古い石積みに撹乱されている、東側も調査区外へと続いている。南東の床面で焼土範囲を確認したが、カマドは検出していない。ピットは南西と東側で検出した。検出した壁面は北と南の2方向であるが、軸はN-12°-Eで、規模が3.7 m程度の方形と考えられる。遺構確認面からの深さは10～20cmである。2号竪穴からは多数の遺物が出土している。遺物は平安時代の土師器が主体である。土師器坏・高台坏・甕・羽釜、置きカマドが出土している。出土地点を記録した遺物は74点で、その内11点を図示した。1～10は土師器である。1～3は坏、4は鉢、5～7は甕、8～10は置きカマドである。11は土器である。かぎ状に曲がる先端部を持ち、受け皿状の丸い窪みの根元で折れている。土製品の可能性がある。10C末から11C初頭の遺構と思われる。

4号竪穴（ＳＩ4）・6号竪穴（ＳＩ6）（第8、15、17図、写真図版5、10）

4号竪穴と6号竪穴は重複しており7Ｂ～8Ｃグリッドに位置する。重複関係は4号竪穴が新しく、6号竪穴が古い。6号竪穴の後に4号竪穴が北東に1 m平行移動した位置に、ほぼ同軸で、より深く掘り込まれている。双方とも東側は調査区外へと続いている。カマド、ピットは検出していない。4号竪穴は軸がN-14°-Eで、規模が3.2 mの方形、遺構確認面からの深さは20～30cmである。6号竪穴は軸がN-10°-Eで、規模が3.6 mの方形、遺構確認面からの深さは15～20cmである。4号竪穴からの出土遺物は少量である。遺物は平安時代の土師器坏・脚高高台坏・甕・羽釜である。出土地点を記録した遺物は15点で、その内3点を図示した。1は坏である。2は脚高高台付坏である。3は甕である。10C末から11C初頭の遺構と思われる。6号竪穴からの出土遺物も少量である。遺物は平安時代の土師器坏・脚高高台坏・甕である。出土地点を記録した遺物は7点で、その内1点を図示した。1は坏の口縁部である。口唇部が肥厚している。10C末から11C初頭と思われる。

5号竪穴（ＳＩ5）（第9、15・16図、写真図版5・6、10）

10Ｃ～11Ｄグリッドに位置する。他の遺構との重複関係はない。東側は調査区外へと続いている。カマド、ピットは検出していない。南西角は床面に地山の巨礫が突き出ている。床下中央で土坑を検出した。また、床下北東では地山の礫層が露出した。検出した3方向の壁面から軸はN-14°-Eで、規模が4 mの方形と考えられる。遺構確認面からの深さは20cmである。5号竪穴からの出土遺物は少量である。遺物は平安時代の土師器坏・甕、砥石、磨石、台石である。出土地点を記録した遺物は29点で、その内12点を図示した。1は坏、2は甕である。3は砥石である。3面が作業面として使われ湾曲している。その内の2面は極めて平滑である。仕上げ砥と思われる。4～9は磨り石である。10～12は台石である。わずかに土器は出土したが、大形の石器が並べられている印象があり、作業場の可能性が考えられる。10C末の遺構と思われる。

【溝・土坑・風倒木痕・ピット】

1号溝（ＳＤ1）・1号土坑（ＳＫ1）・6号ピット（Pit 6）（第10、17図、写真図版6・7、10）

1号溝は11Ｃ～14Ｄグリッドに位置する。1号土坑は1号溝の底面で検出し13Ｄ～14Ｄグリッドに位置する。6号ピットは1号溝に接して検出し12Ｄグリッドに位置する。1号溝は南北に13 m直線に伸び、北端で西へ2.5 m曲がる範囲を検出した。西側は水路の古い石積みに撹乱され、水路と直行する方向で調査区外へと続いている。南側も撹乱され途絶えている。1号溝は長軸がN-13°-Eで、幅は1.3～1.9 m、遺構確認面からの深さは10～20cmである。溝の中央部には砂礫層が入る。流水を伴う溝であったと考えられる。出土遺物も流水が運んだと考えられ良く摩耗している。1号土坑は長軸がN-22°-Eで、長さ2.8 m、幅0.8 mの楕円形で深さは40cmである。6号ピットは長さ50cm、幅40cmの円形で、深さは20cmである。中心部から礫が検出され、根石が据えられたピットの可能性も考えたが、礫は底面から浮き上がっていた。

1号溝からは多数の遺物が出土している。遺物は縄文土器、石器、平安時代の土師器坏・高台付坏・甕・羽釜、須恵器小片、中世の土師質土器かわらけ、陶器天目茶碗・常滑甕、内耳土器、青磁碗、近世の陶磁器片・土

器片、砥石である。いずれも摩耗が激しい。出土地点を記録した遺物は 104 点で、その内 8 点を図示した。1・2 は青磁である。2 は釉の発色が極淡い。3 は天目茶碗である。4 は外面の風化が激しい碗である。5 は常滑の甕である。口縁縁帯幅は 2.2cm である。13 世紀後半と思われる。6 はかわらけである。7 は内耳土器である。8 は砥石である。中世から近世の遺構と思われる。1 号土坑、6 号ピットから遺物は出土していない。

1 号風倒木痕（S X 1）・1 号ピット（Pit 1）・2 号ピット（Pit 2）（第 11、17 図、写真図版 7、11）

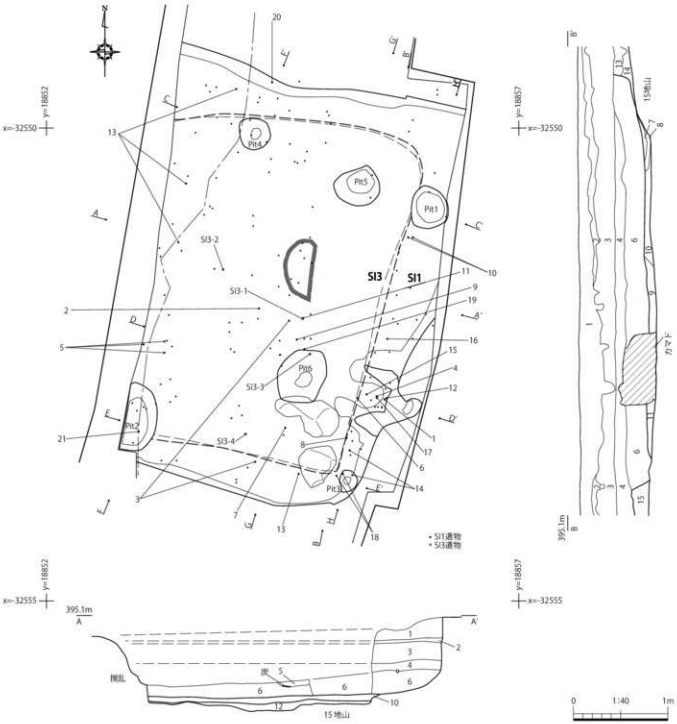
1 号風倒木痕と 1 号ピット、2 号ピットは重複しており 2 A グリッドに位置する。重複関係はピットが新しく、風倒木痕が古い。風倒木痕は直径 3.2 m程の不整円形で、深さは 1.2 mである。西側に腐植土である黒色土が潜り込み、東側に地山である黄褐色土が浮き上がっているため、東風により西へ倒木したと考えられる。1 号ピットは長さ 20cm、幅 20cm の円形で、深さは 10cm である。2 号ピットは長さ 20cm、幅 10cm の円形で、深さは 10cm である。1 号風倒木痕からの出土遺物は縄文土器、打製石斧、黒曜石小剥片である。出土地点を記録した遺物は 22 点で、その内 5 点を図示した。1・2 は縄文土器である。1 は前期終末期。波状口縁の突起でトロフィー形土器の頂上部の可能性がある。2 は前期末から中期初頭（五領ヶ台Ⅰ式）と思われる。3 ～ 5 は打製石斧である。遺物は最深部からも出土しており、垂直分布には 80cm の幅を持つが、いずれも遺物包含層からの潜り込みと思われる。1 号ピットからは縄文土器の小片が 1 点出土した。2 号ピットから遺物は出土していない。

3 号ピット（Pit 3）・4 号ピット（Pit 4）・5 号ピット（Pit 5）（第 11 図）

3 号ピットは 6 B グリッドに位置する。長さ 40cm、幅 30cm の楕円形で、深さは 20cm である。遺物は出土していない。4 号ピットは 7 B グリッドに位置する。長さ 25cm、幅 20cm の円形で、深さは 6 cm である。遺物は出土していない。5 号ピットは 7 B グリッドに位置する。長さ 40cm、幅 35cm の円形で、深さは 10cm である。土師器坏の小片が 2 点出土している。

遺物包含層出土遺物（第 12、18 図、写真図版 11）

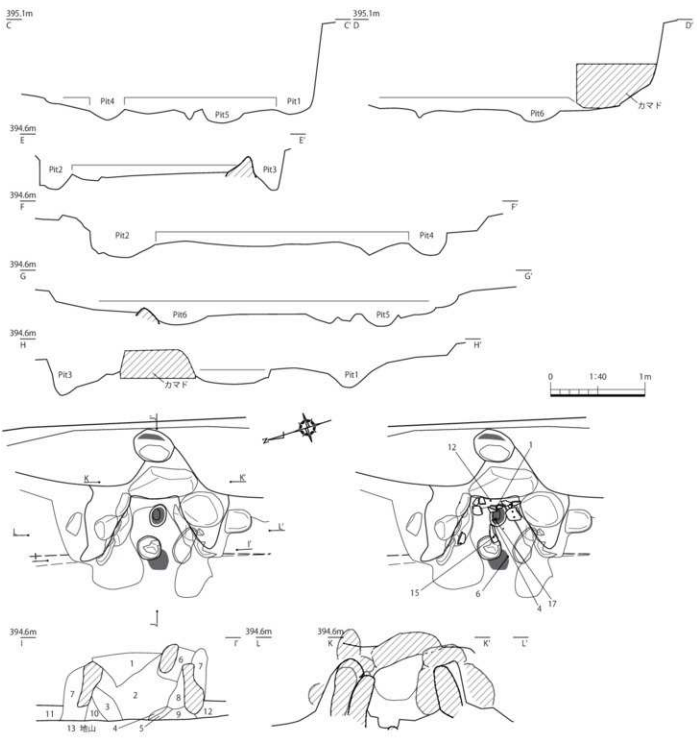
遺物包含層からの出土遺物は調査区全域から出土しているが、北側の分布密度が高い。出土遺物は縄文土器、打製石斧、平安時代の土師器坏・脚高高台付坏・甕、須恵器壺である。出土地点を記録した遺物は 207 点で、その内 25 点を図示した。1 ～ 21 は縄文土器である。1 は繊維を含む。前期初頭と思われる。2 は口縁部に横位の連続爪形文がみられる。前期後半（諸磯 b 式）と思われる。3 は口縁部に横位の半隆線を上下にはさみ、連続した三角印刻文がみられる。下にもう一列の三角または丸の刺突文の連続もみられる。4 は横位の沈線の上に縦位のキザミ、下に三角印刻文が連続してみられる。3・4 は前期終末（十三菩提式併行（古））と思われる。長野県富士見町籠畑遺跡などにみられる。5 は口縁部に斜位の条線がみられ、口唇部が内湾している。体部に集合沈線文を施す土器と思われる。前期終末（十三菩提式併行（新））と思われる。踊場式系の土器であろう。6 は頸部に横位の沈線と斜位の集合沈線がみられる。前期終末と思われる。7 は口縁部に弧状の半截竹管文、その下に縦位の集合沈線、口唇部に連続する刺突文がみられる。8 は口縁部に横位の沈線、その下に縦位の沈線がみられる。口縁部が屈折して直立し、口唇部が外反する。胎土には長石が非常に多く含まれている。9 は頸部に刺突文を伴う横位の沈線の下に、波状の並行沈線と斜位・横位の細線文がみられる。10 は頸部に横位の沈線の下に横位の並行沈線がみられる。以上の 7 ～ 10 は前期終末～中期初頭（五領ヶ台Ⅰ式）と思われる。11・12 は胴部下半に縦位の集合沈線がみられる。前期末（諸磯 C 式～十三菩提式併行期）と思われる。13 は胴部に集合沈線とボタン状貼付文がみられる。前期後半（諸磯 C 式）と思われる。14 ～ 16 は胴部下半に集合沈線がみられる。前期末（諸磯 C 式～十三菩提式併行期）と思われる。17・18 は胴部に縄文がみられる。前期後半（諸磯 b 式）と思われる。19 は胴部に縄文がみられる。前期終末（関西系）と思われる。20・21 は胴部に縦位の太い沈線がみられる。後期前葉（堀之内Ⅰ式）と思われる。22 は須恵器瓶の口縁部である。23 ～ 25 は打製石斧である。



SI1・SI3

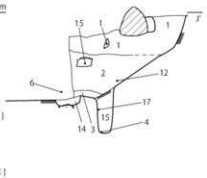
1　褐灰色（10YR4/2）シルト　締まりあり　粘性ややあり　径２mm黄色土粒１%　径１mm白色粒３%　［表土：耕作土］
2　にぶい黄褐色（10YR5/4）シルト　締まりあり　粘性ややあり　径１mm黄色粒 10%　［耕作土：水田床土］
3　暗褐色（10YR3/3）シルト　締まりあり　粘性ややあり　径３mm焼土粒１%　径２mm焼土粒３%　径１mm白色粒１%　［遺物包含層］
4　黒褐色（10YR3/1）シルト　締まりあり　粘性ややあり　径１mm赤色粒１%　径１mm白色粒１%　［遺物包含層］
5　褐色（10YR4/4）シルト　締まりややあり　粘性ややあり　径５mm焼土ブロック５%　径10mm焼土１%　径50mm焼土１%　［焼土範囲］
6　褐色（10YR4/4）シルト　締まりややあり　粘性ややあり　径５～10mm黄色土粒５%　径５mm焼土粒３%　径５mm炭化物１%　［SI4］
7　黄褐色（10YR5/6）シルト　締まり強い　粘性ややあり　黒褐色土５%混じる　［SI3（SI1 貼り床）］
8　黒褐色（10YR3/1）シルト　締まりあり　粘性ややあり　径10mm黄色土粒１%　径５mm焼土粒１%　［SI3（SI1 貼り床）］
9　黒褐色（10YR3/1）シルト　締まり強い　粘性ややあり　径10mm黄色土粒５%　径５mm焼土粒３%　［SI3（SI1 貼り床）］
10　黄褐色（10YR5/6）シルト　締まり強い　粘性ややあり　黒褐色土５%混じる　［SI3（SI1 貼り床）］
11　黒褐色（10YR3/1）シルト　締まりややあり　粘性ややあり　径10mm黄色土粒10%　径５mm焼土粒３%　［SI3（SI1 貼り床）］
12　黒褐色（10YR2/2）シルト　締まり強い　粘性ややあり　径５mm黄色土粒30%　［SI3 貼り床］
13　黒褐色（10YR3/1）シルト　締まりあり　粘性ややあり　径２mm黄色粒２%　径１mm白色粒１%
14　褐色（10YR4/6）シルト　締まりあり　粘性ややあり　径１mm白色粒２%　［地山漸移層］
15　黄褐色（10YR5/6）シルト　締まりあり　粘性ややあり　［地山］

第５図　１号・３号竪穴（１）　遺構

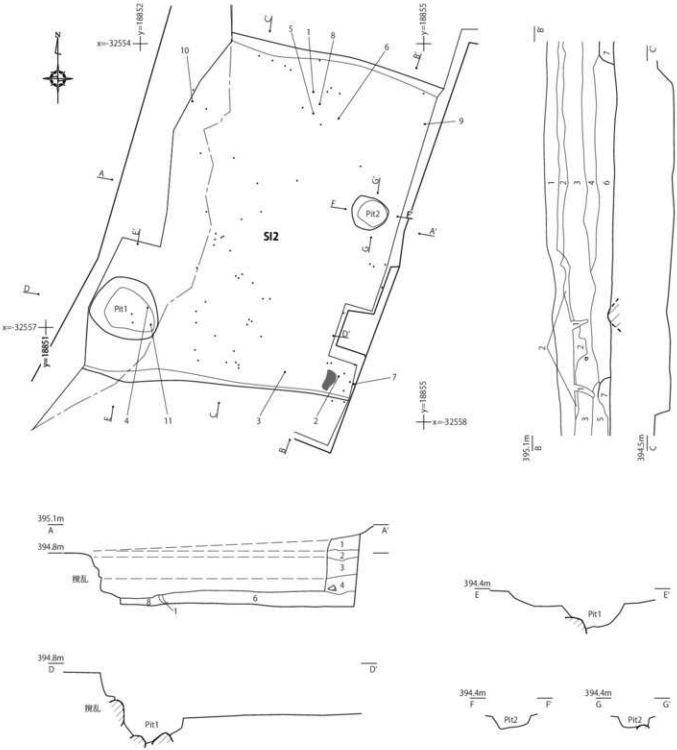


SI1 カマド

1　黒褐色（10YR3/1）シルト　締まりあり　粘性ややあり　径 10 ㎜黄色土粒 1％　径 5 ㎜焼土粒 1％
2　褐色（10YR4/4）シルト　締まりややあり　粘性ややあり　径 5 ㎜黄色土粒・焼土粒・炭化物 1％
3　黒褐色（10YR3/1）シルト　締まり弱い　粘性ややあり　径 5 ～ 10 ㎜焼土粒 10％
4　赤色（10R4/8）シルト　焼土層
5　黒色（10YR2/1）シルト　炭化物層
6　褐色（10YR4/4）シルト　締まりあり　粘性ややあり　径 20 ㎜焼土粒 10％　［カマド構築材］
7　明黄褐色（10YR6/6）シルト　締まり強い　粘性弱い　粘土ではない　［カマド構築材］
8　褐色（10YR4/4）シルト　締まり弱い　粘性ややあり　径 5 ～ 10 ㎜黄色土粒 3％　径 5 ㎜焼土粒 2％　［カマド構築材］
9　黄褐色（10YR5/6）シルト　締まり強い　粘性ややあり　径 10 ㎜焼土粒 2％　［カマド構築材］
10 黄褐色（10YR5/6）シルト　締まり強い　粘性ややあり　黒褐色土 10％混じる　［カマド構築材］
11 黒褐色（10YR3/1）シルト　締まり強い　粘性ややあり　径 10 ㎜黄色土粒 5％　径 5 ㎜焼土粒 3％　［SI1 貼り床］
12 黒褐色（10YR3/1）シルト　締まりややあり　粘性ややあり　径 10 ㎜黄色土粒 10％　径 5 ㎜焼土粒 3％　［SI1 貼り床］
13 黄褐色（10YR5/6）シルト　締まりあり　粘性ややあり　［地山］
14 黒色（10YR2/1）シルト　締まり弱い　粘性ややあり　径 5 ㎜焼土粒 2％
15 褐色（10YR4/4）シルト　締まり極めて弱い　粘性ややあり　径 5 ㎜黄色土粒 3％　径 5 ㎜焼土粒 5％　［支柱穴］



第６図　１号・３号竪穴（２）　遺構

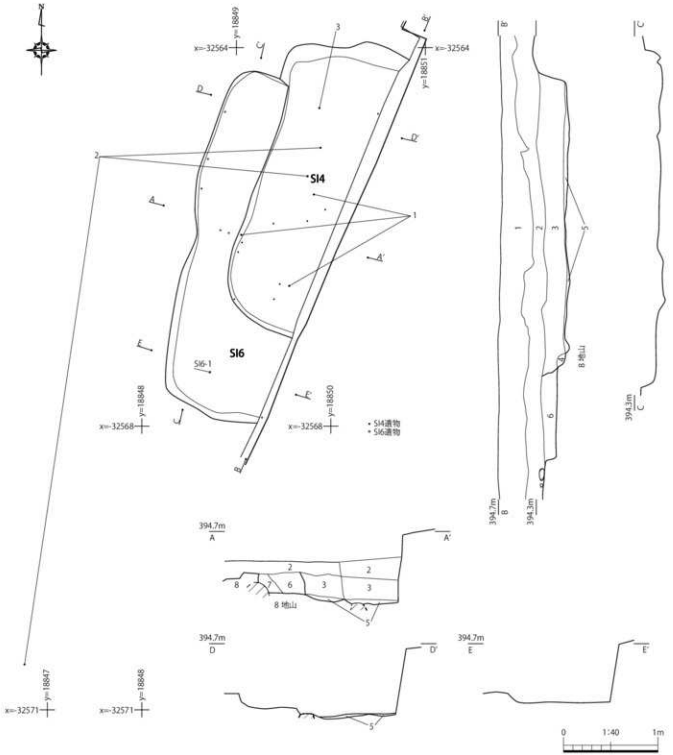


SI2

1　暗灰色（10YR4/2）シルト　締まりあり　粘性ややあり　径２mm黄色土粒１%　径１mm白色粒３%　［表土：耕作土］
2　にぶい黄褐色（10YR5/4）シルト　締まりあり　粘性ややあり　径１mm黄色粒 10 %　［耕作土：水田床土］
3　暗褐色（10YR3/3）シルト　締まりあり　粘性ややあり　径３mm焼土粒１%　径２mm焼土粒３%　径１mm白色粒１%　［遺物包含層］
4　黒褐色（10YR3/1）シルト　締まりあり　粘性ややあり　径１mm赤色粒１%　径１mm白色粒１%　［遺物包含層］
5　黒褐色（10YR3/1）シルト　締まりあり　粘性ややあり　径２mm黄色土粒２%　径１mm白色粒１%　［遺物包含層］
6　褐色（10YR4/4）シルト　締まりややあり　粘性ややあり　径５mm焼土粒３%　径５mm黄色粒１%　径５mm炭化粒１%　［SI2］
7　黄褐色（10YR5/6）シルト　締まりあり　粘性ややあり　［地山］
8　暗灰黄色（2.5Y4/2）砂質土　締まりややあり　粘性ややあり　［旧河川護岸の掘足（裏込め）］

0　1:40　1m

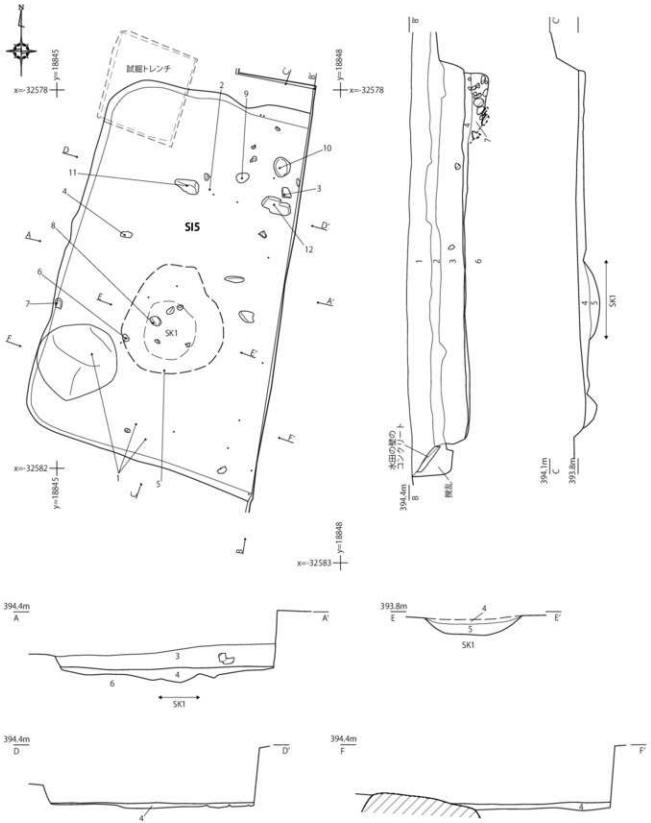
第７図　２号竪穴　遺構



SI4・SI6

1　褐灰色 (10YR4/2) シルト　締まりあり　粘性ややあり　径 2 ㎜黄色土粒 1%　径 1 ㎜白色粒 3%　[表土：耕作土]
2　黒褐色 (10YR3/1) シルト　締まりあり　粘性ややあり　径 2 ㎜黄色土粒 2%　径 1 ㎜白色粒 1%　[遺物包含層]
3　黒褐色 (7.5YR3/1) シルト　締まりあり　粘性ややあり　径 5 ㎜黄色土粒 5%　径 2 ㎜焼土粒 3%　[SI4]
4　にぶい黄褐色 (10YR5/4) シルト　締まり弱い　粘性ややあり　[SI4]
5　黒褐色 (7.5YR3/1) シルト　締まり強い　粘性ややあり　[SI4 貼り床]
6　黒褐色 (10YR3/1) シルト　締まりあり　粘性ややあり　径 2 ㎜黄色土粒 2%　径 1 ㎜白色粒 2%　径 2 ㎜焼土粒 1%　[SI6]
7　黒褐色 (10YR3/1) シルト　締まり弱い　粘性ややあり　径 2 ㎜黄色土粒 1%　径 2 ㎜黒色土粒 1%　[SI6]
8　黄褐色 (10YR5/6) シルト　締まりあり　粘性ややあり　[地山]

第８図　４号・６号竪穴　遺構



SI5

1　褐灰色 (10YR4/2) シルト　締まりあり　粘性ややあり　径２mm黄色土粒 1%　径１mm白色粒３%　[表土：耕作土]

2　にぶい黄褐色 (10YR5/4) シルト　締まりあり　粘性ややあり　径１mm黄色粒 10%　[耕作土：水田床土]

3　暗褐色 (10YR3/3) シルト　締まりあり　粘性ややあり　径５mm黄色粒 3%　径１mm白色粒 1%　[SI5 覆土]

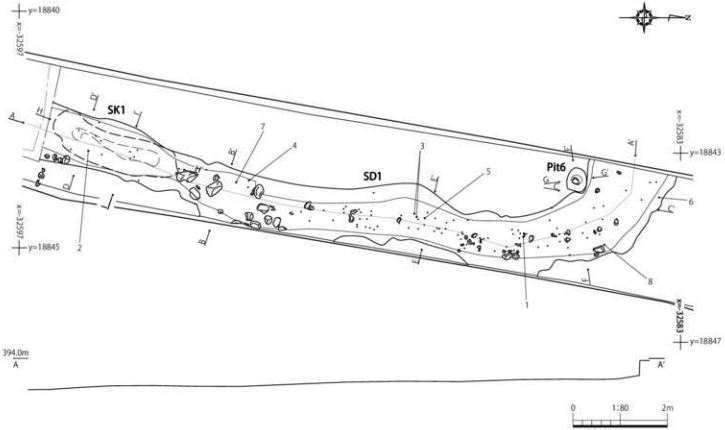
4　にぶい黄褐色 (10YR4/3) シルト　締まり強い　粘性ややあり　径５mm暗褐色土粒 3%　径２mm白色粒 2%　[SI5 掘り方]

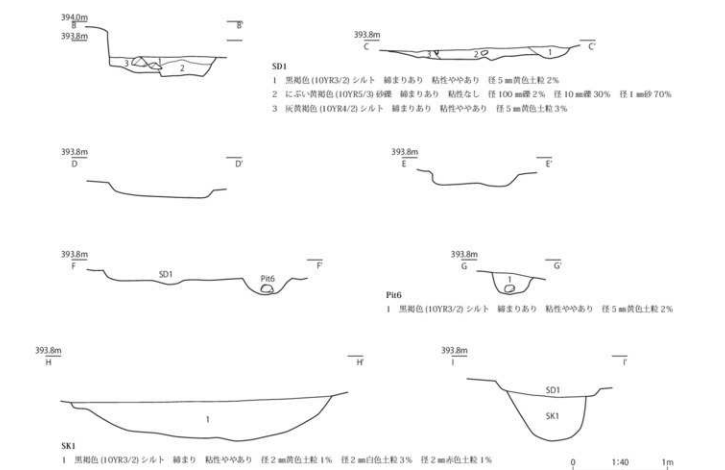
5　にぶい黄褐色 (10YR4/3) シルト　締まりあり　粘性ややあり　[床下SK1]

6　黄褐色 (10YR5/6) シルト　締まりあり　粘性ややあり　[地山]

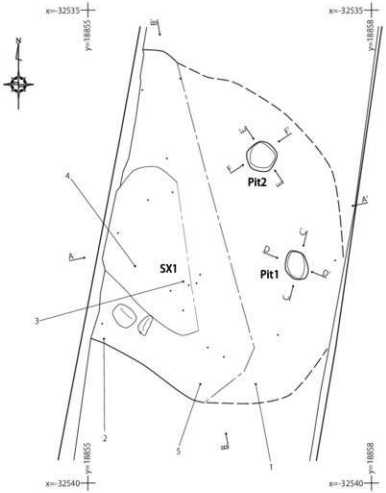
7　礫層　径 10 ～ 30 cm円礫　[地山]

第９図　５号竪穴　遺構





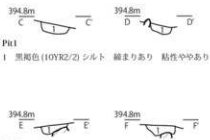
第10図　1号溝・1号土坑・6号ピット　遺構



SX1

1　黒褐色 (10YR3/2) シルト　締まりあり　粘性あり　［腐植土混り込み］

2　黄褐色 (10YR5/6) シルト　締まりあり　粘性ややあり　［地山浮き上がり］

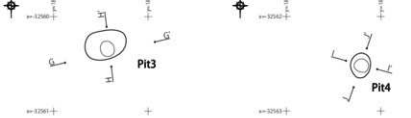


Pit1

1　黒褐色 (10YR2/2) シルト　締まりあり　粘性ややあり

Pit2

1　黒褐色 (10YR2/2) シルト　締まりあり　粘性ややあり

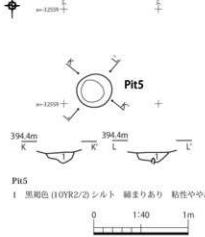


Pit3

1　黒褐色 (10YR2/2) シルト　締まりあり　粘性ややあり

Pit4

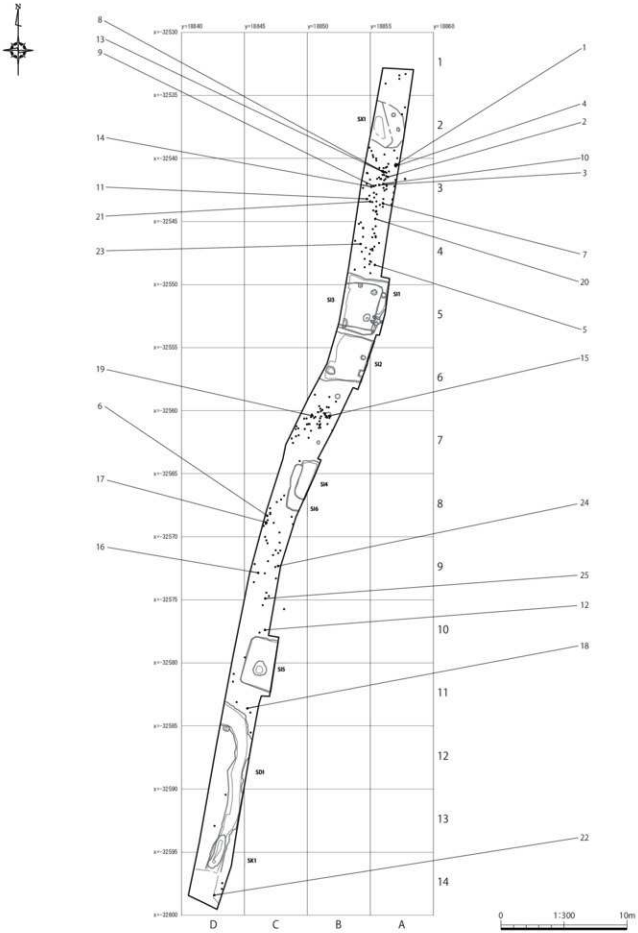
1　黒褐色 (10YR2/2) シルト
締まりあり　粘性ややあり



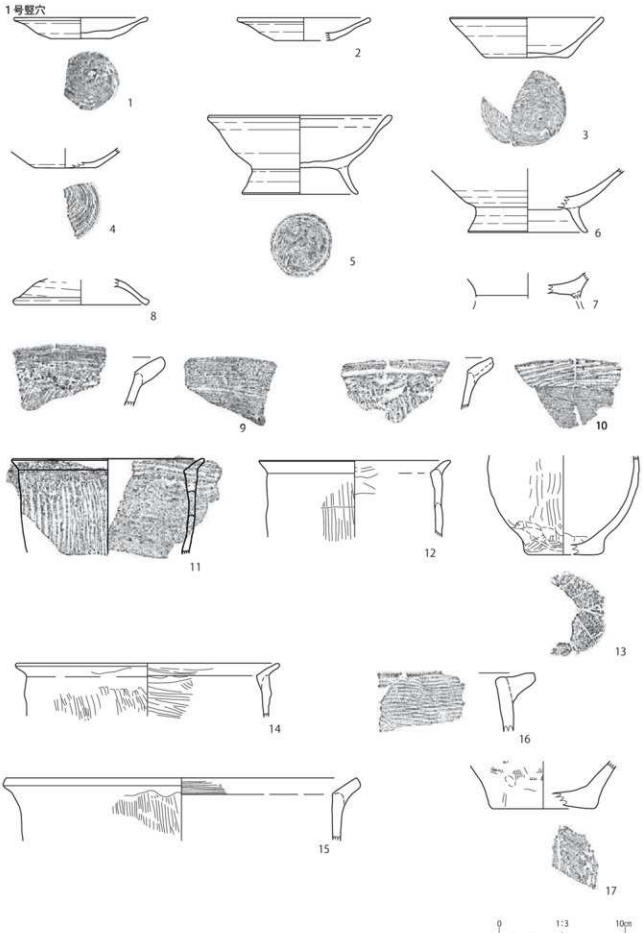
Pit5

1　黒褐色 (10YR2/2) シルト　締まりあり　粘性ややあり

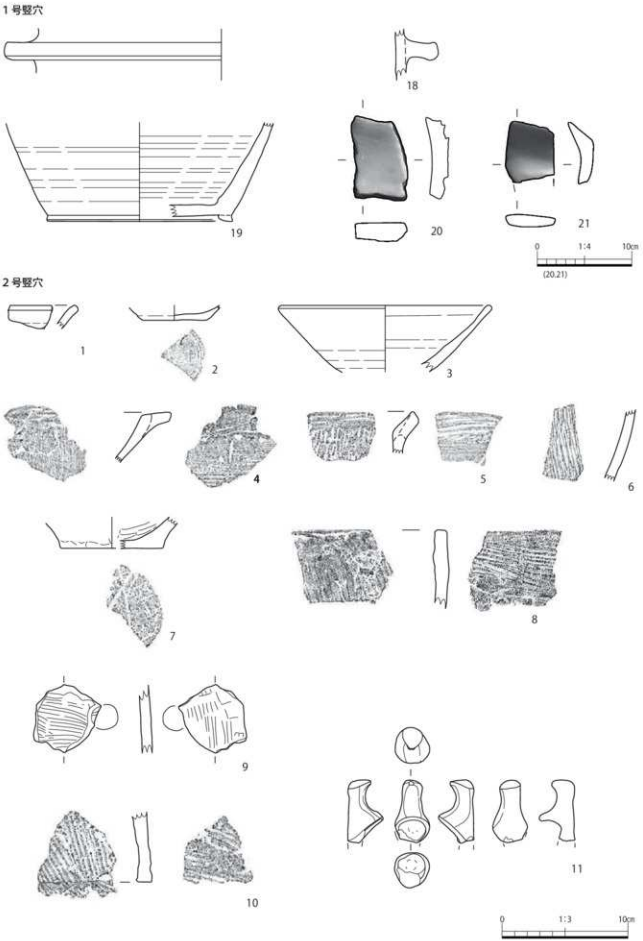
第11図　１号風倒木痕・１号～５号ピット　遺構



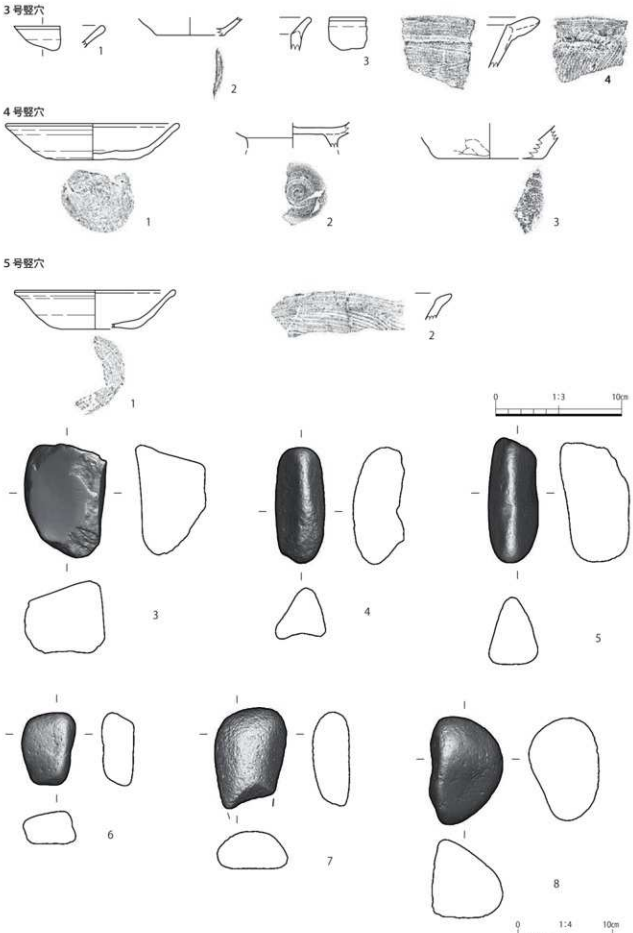
第12図　遺物包含層　出土分布



第 13 図　1 号竪穴（1）　遺物

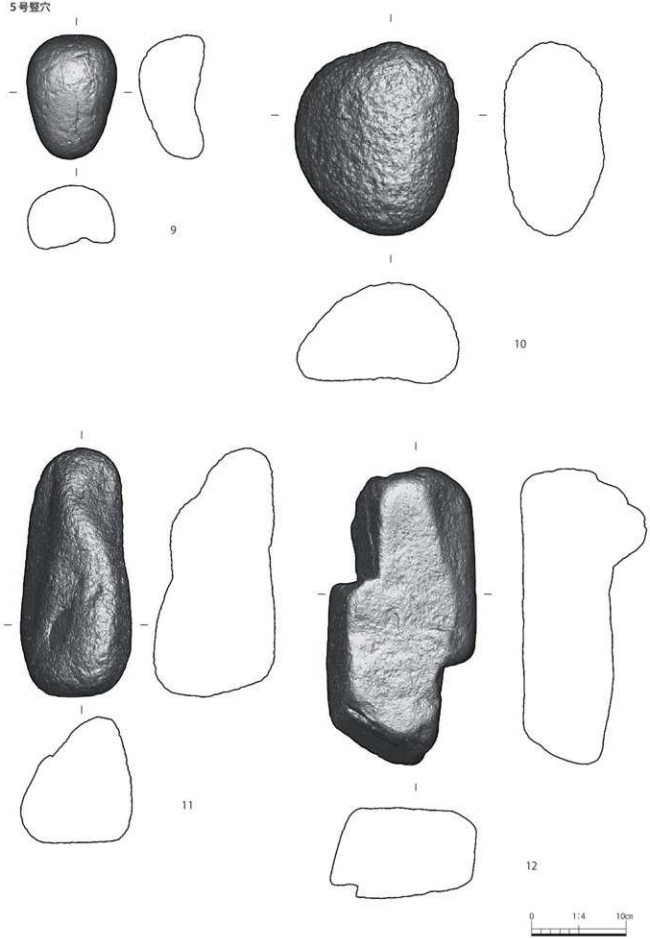


第14図　1号竪穴（2）・2号竪穴　遺物

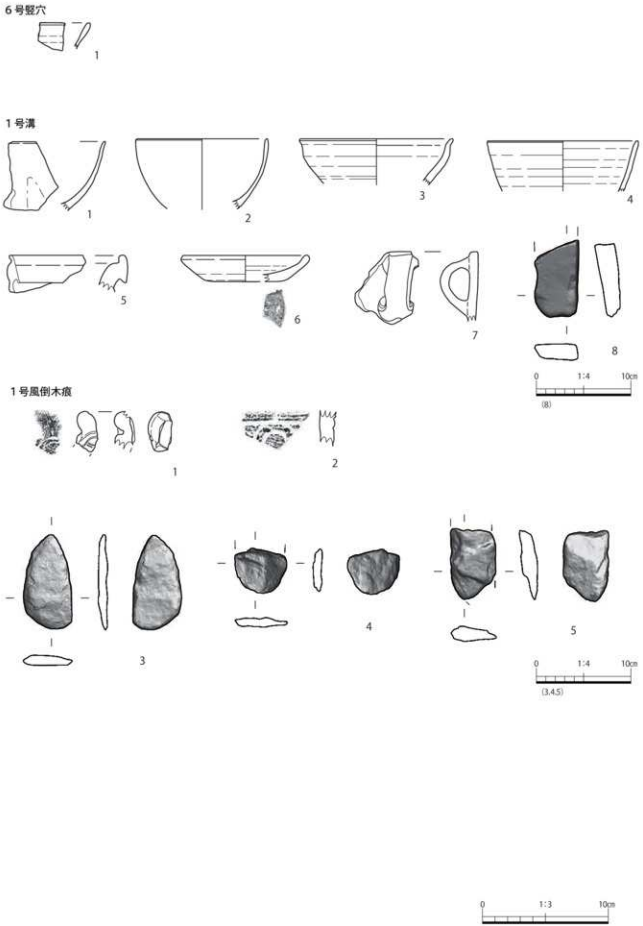


第15図　3号竪穴・4号竪穴・5号竪穴（1）　遺物

5号竪穴

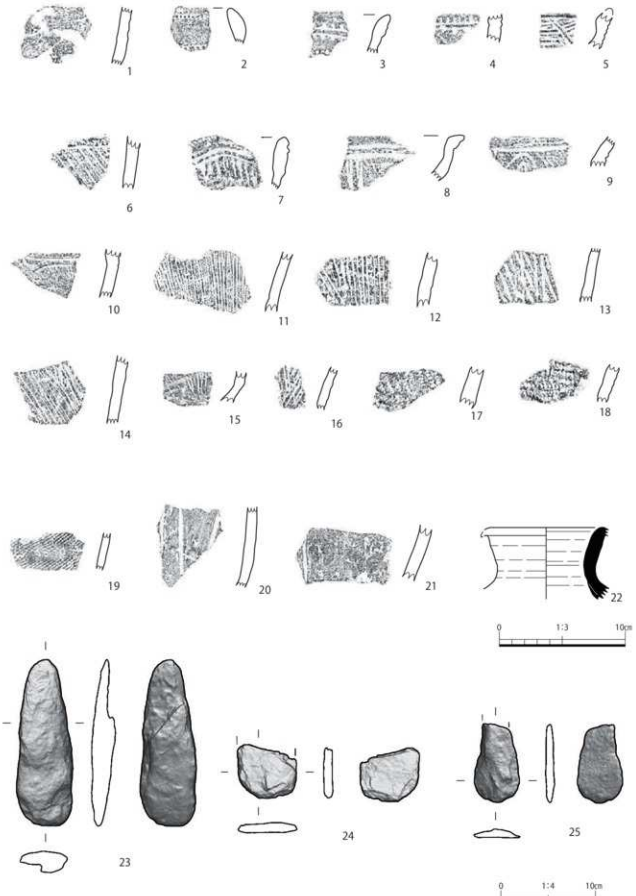


第16図　5号竪穴（2）遺物



第17図　6号竪穴・1号溝・1号風倒木痕　遺物

遺物包含層



第 18 図　遺物包含層　遺物

表2 遺物観察表

※数値単位は2cm、(数値)は復元・残存値

遺構名	遺物番号	写真図版番号	種別	器種	部位	口径／長	底径／幅	器高／厚	色調	焼成	胎土	備考
SI1	1	8	土師器	皿	口縁～底部	(10.4)	4.8	1.7	橙色5YR6/6	良好	赤色粒	口縁部玉縁、体部ロクロナデ、底部回転糸切り痕残存
SI1	2	8	土師器	皿	口縁～胴部	(10.4)	(4.6)	1.8	橙色5YR6/6	良好	赤色粒	体部ロクロナデ
SI1	3	8	土師器	坏	口縁～底部	(12.0)	(6.4)	(3.2)	橙色5YR7/6	良好	赤色粒	
SI1	4	8	土師器	坏	底部	—	(5.0)	(1.6)	橙色7.5YR6/6	良好	赤色粒	体部外面下半ロクロナデ、底部糸切り痕残存、SI1-144の下15cm(古い支柱石の穴か？)
SI1	5	8	土師器	脚高高台付坏	口縁～脚部	14.6	9.0	6.3	褐色7.5YR6/6	良好	赤色粒	ロクロナデ、高台内中央糸切り痕残存、高台貼り付け
SI1	6	8	土師器	脚高高台付坏	胴～脚部	—	(9.6)	(5.1)	橙色7.5YR6/6	良好	赤色粒	ロクロナデ、高台貼り付け
SI1	7	8	土師器	脚高高台付坏	底部	—	—	(2.1)	橙色5YR6/8	良好	赤色粒	ロクロナデ、高台貼り付け
SI1	8	8	土師器	甕	口縁～胴部	(10.4)	—	(2.0)	橙色5YR6/6	良好	長石・赤色粒	
SI1	9	8	土師器	鉢	口縁部	—	—	(3.8)	明赤褐色5YR5/6	良好	長石・雲母	外面ナデ、口唇部・内面ヨコハケ
SI1	10	8	土師器	鉢	口縁部	—	—	(4.1)	にぶい赤褐色5YR4/3	良好		外面タテハケ、内面ヨコハケ
SI1	11	8	土師器	甕	口縁～胴部	(15.0)	—	(7.6)	明赤褐色2.5YR5/8	良好	長石・雲母	外面タテハケ、内面ナデ、口唇部ヨコハケ、小形
SI1	12	8	土師器	甕	口縁～胴部	(15.0)	—	(6.1)	明赤褐色2.5YR5/6	良好	長石	体部外面タテハケ・内面ナデ、口唇部外面ナデ・内面ヨコハケ、小形、薄口縁型
SI1	13	8	土師器	甕	胴～底部	—	(6.2)	(7.9)	明赤褐色5YR5/6	良好	長石・石英・雲母	外面タテハケ、内面ナデ、底部木葉痕、小形
SI1	14	8	土師器	甕	口縁部	(20.4)	—	(4.3)	赤褐色2.5YR4/6	良好	長石・石英・雲母	
SI1	15	8	土師器	甕	口縁部	(27.8)	—	(5.0)	にぶい赤褐色5YR4/4	良好	長石・石英・金色雲母	外面タテハケ、内面ナデ、口唇部ヨコハケ
SI1	16	8	土師器	甕	口縁部	—	—	(4.7)	にぶい赤褐色5YR5/4	良好	長石・雲母	外面ナデ、口唇部・内面ヨコハケ、口縁歪みあり、末広口縁型、(直に貼り付け)
SI1	17	8	土師器	甕	底部	—	(8.0)	(3.8)	にぶい赤褐色5YR4/3	良好	長石・雲母	外面タテハケ、内面ヨコハケ、ナデ、底部木葉痕
SI1	18	9	土師器	羽釜	鍔	—	—	(4.1)	にぶい赤褐色5YR4/4	良好	長石・石英・雲母	
SI1	19	9	灰釉陶器	瓶	胴～底部	—	(14.6)	(7.9)	にぶい黄橙色10YR7/2	良好		胴部外面および底部内外面に灰釉付着、貼り付け高台
SI1	20	9	石器	砥石		9.0	6.1	2.0				
SI1	21	9	石器	砥石		(6.6)	(5.3)	(1.3)				
SI2	1	9	土師器	坏	口縁部	—	—	(1.8)	橙色5YR6/6	良好	赤色粒	ロクロナデ、大形か？
SI2	2	9	土師器	坏	底部	—	(5.0)	(1.2)	橙色7.5YR6/6	良好	赤色粒	体部外面下半ロクロナデ、底部糸切り痕残存
SI2	3	9	土師器	坏	口縁～胴部	(16.4)	—	(5.3)	明赤褐色5YR5/6	良好	赤色粒	ロクロナデ、大形
SI2	4	9	土師器	鉢	口縁部	—	—	(4.0)	明赤褐色5YR5/6	良好	長石・雲母	外面タテハケ、口唇部・内面ヨコハケ
SI2	5	9	土師器	甕	口縁	—	—	(2.8)	明褐色5YR5/6	良好	長石	厚口縁型
SI2	6	9	土師器	甕	胴部	—	—	(5.7)	黒褐色5YR3/1	良好	長石・雲母	外面タテハケ、内面ナデ
SI2	7	9	土師器	甕	底部	—	—	(8.0)	にぶい赤褐色5YR4/4	良好	金色雲母	
SI2	8	9	土師器	竈きカマド	掛口	—	—	(6.2)	赤褐色5YR4/6	良好	長石・石英・金色雲母・赤色粒	
SI2	9	9	土師器	竈きカマド	胴部マドウ	—	—	(5.4)	にぶい赤褐色5YR5/3	良好	長石・雲母	外面タテハケ、内面ヨコハケ、切り口あり

※数値単位は2cm、(数値)は復元・現存値

遺構名	遺物番号	写真図版番号	種別	器種	部位	口径／長	底径／幅	器高／厚	色調	焼成	胎土	備考
SI2	10	9	土師器	掻きカマド	根脚部	—	—	(5.6)	黒褐色7.5YR3/1	良好	石英	外面タテハケ、内面ヨコハケ
SI2	11	9	土器	脚？	又は突起	—	—	(4.8)	明赤褐色5YR5/6	良好		近世？土製品？
SI3	1	9	土師器	坏	口縁部	—	—	(1.7)	橙色5YR6/6	良好	赤色粒	ロクロ整形、表面の摩耗が激しい
SI3	2	9	土師器	坏	胴～底部	—	(5.4)	(1.4)	明赤褐色5YR5/6	良好	赤色粒	体部外面下半ロクロナデ、底部糸切り痕残存
SI3	3	9	土師器	甕	口縁部	—	—	(2.6)	暗赤褐色5YR3/2	良好	長石・石英・雲母	薄口縁型
SI3	4	9	土師器	甕	口縁部	—	—	(4.0)	赤褐色5YR4/6	良好	長石・石英・雲母	
SI4	1	10	土師器	坏	口縁～底部	(13.8)	5.6	2.9	橙色5YR7/6	良好	石英・赤色粒	体部ロクロ整形のみ、底部回転糸切り痕残存
SI4	2	10	土師器	脚高高台付坏	底部	—	—	(2.0)	橙色5YR6/8	良好	長石・赤色粒	ロクロナデ、高台貼り付け
SI4	3	10	土師器	甕	底部	—	(8.4)	(2.8)	暗赤褐色5YR3/2	良好	長石・石英	
SI5	1	10	土師器	坏	口縁～底部	(12.6)	5.6	3.1	橙色7.5YR6/6	良好		口縁玉縁、体部ロクロ整形のみ、底部回転糸切り痕残存
SI5	2	10	土師器	甕	口縁部	—	—	(1.6)	明赤褐色5YR5/6	良好	長石	外面剥離している
SI5	3	10	石器	砥石		12.0	8.7	7.6				
SI5	4	10	石器	磨石？		12.4	5.3	5.4				
SI5	5	10	石器	磨石？		13.3	5.4	7.1				
SI5	6	10	石器	磨石？		7.7	5.8	3.5				
SI5	7	10	石器	磨石？		(10.8)	(7.7)	(4.0)				
SI5	8	10	石器	磨石？		11.5	7.9	8.3				
SI5	9	10	石器	磨石		132.4	95.9	67.4				
SI5	10	10	石器	台石？		20.5	17.4	10.7				
SI5	11	10	石器	台石？		26.4	11.8	13.4				
SI5	12	10	石器	台石		31.5	15.9	9.6				
SI6	1	10	土師器	坏	口縁部	—	—	(2.2)	橙色5YR6/6	良好	石英・赤色粒	
SD1	1	10	青磁	碗	口縁～胴部	—	—	(5.5)	(釉)灰白色10Y7/2	良好		直線無紋？除刻不明瞭だが釉が厚く、発色が濃い部分あり。
SD1	2	10	青磁	碗	口縁～胴部	(10.4)	—	(5.7)	透明釉(淡い青)	良好		
SD1	3	10	陶器	天目茶碗	口縁～胴部	(12.2)	—	(3.7)	浅黄橙色10YR8/3　(釉)黒褐色5YR3/1	良好		
SD1	4	10	陶器	碗	口縁～胴部	(12.0)	—	(4.1)	灰白色7.5YR8/2(釉)にぶい黄橙色10YR6/3	良好		
SD1	5	10	陶器	甕	口縁部	—	—	(2.7)	明褐灰色5YR7/1	良好		常滑、口縁縁帯幅2.2cm、13C後半頃か？
SD1	6	10	土師質土器	かわらけ	口縁～底部	(9.8)	(5.4)	2.1	灰褐色7.5YR5/1	良好	長石・金色雲母	ロクロ整形
SD1	7	10	土器	内耳土器	口縁部耳部	—	—	(5.6)	にぶい橙色7.5YR7/4	良好	長石	
SD1	8	10	石器	砥石		(8.2)	(4.7)	(1.7)				

※数値単位はcm、(数値)は復元・残存値

遺構名	遺物番号	写真図版番号	種別	器種	部位	口径／長	底径／幅	器高／厚	色調	焼成	胎土	備考
SX1	1	11	縄文土器	深鉢形土器	口縁部突起	—	—	(3.2)	赤褐色5YR4/6	良好	長石・金色雲母	前期終末期、波状口縁の突起(トロフィー形土器の頂上部の可能性あり)
SX1	2	11	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(2.9)	赤褐色5YR4/6	良好	長石・金色雲母	前期末～中期初頭、五領ヶ台Ⅰ式か？
SX1	3	11	石器	打製石斧		10.0	5.2	1.1				ホルンフェルス(片岩由来？)
SX1	4	11	石器	打製石斧	撥形？短冊形？	(4.8)	(5.6)	(1.0)				ホルンフェルス(片岩由来？)
SX1	5	11	石器	打製石斧		(7.6)	(4.9)	(1.6)				緑泥片岩
遺構外	1	11	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(4.6)	明赤褐色5YR5/6	良好	長石	前期初頭、繊維を含む土器
遺構外	2	11	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	—	—	(2.8)	にぶい黄橙色10YR6/4	良好	長石	諸磯b式
遺構外	3	11	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	—	—	(3.1)	赤褐色5YR4/6	良好	長石・雲母	前期終末、十三菩提式併行(古)、長野県富士見町籠畑遺跡などにみられる。
遺構外	4	11	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(2.2)	明赤褐色5YR5/6	良好	長石・雲母	前期終末、十三菩提式併行(古)、長野県富士見町籠畑遺跡などにみられる。
遺構外	5	11	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	—	—	(2.9)	灰褐色7.5YR4/2	良好	長石	前期終末、十三菩提式併行(新)、集合沈線文の土器、踊場式系。
遺構外	6	11	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(4.0)	にぶい赤褐色10YR4/4	良好	白色粒	前期終末、沈線文の土器
遺構外	7	11	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	—	—	(4.0)	明赤褐色5YR5/6	良好	長石・雲母	前期終末～中期初頭の土器、口縁部に半截竹管文、口唇部に刺突文
遺構外	8	11	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	—	—	(3.6)	明赤褐色5YR5/8	良好	長石・雲母	前期終末～中期初頭、口縁の形は五領ヶ台Ⅰ式か、長石を非常に含む
遺構外	9	11	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(2.3)	明赤褐色5YR5/8	良好	長石	前期終末～中期初頭、細線文がみられる、五領ヶ台Ⅰ式か
遺構外	10	11	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(3.7)	赤褐色5YR4/8	良好	長石・雲母	前期終末～中期初頭、沈線の状況からは五領ヶ台Ⅰ式か
遺構外	11	11	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(4.7)	明赤褐色5YR5/6	良好	長石・石英・金色雲母	前期末(諸磯C式～十三菩提式併行期)、沈線文の土器(土器胴体下半部)
遺構外	12	11	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(4.3)	明褐色7.5YR5/6	良好	石英・雲母・白色粒	前期末(諸磯C式～十三菩提式併行期)、沈線文の土器(土器胴体下半部)
遺構外	13	11	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(4.4)	明赤褐色5YR5/6	良好	長石・雲母	前期後半、諸磯C式、沈線文の土器(土器胴体下半部)、一部ボタン状貼付あり
遺構外	14	11	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(5.4)	明褐色7.5YR5/6	良好	長石	前期末(諸磯C式～十三菩提式併行期)、沈線文の土器(土器胴体下半部)
遺構外	15	11	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(2.5)	にぶい赤褐色5YR4/4	良好	長石・金色雲母	前期末(諸磯C式～十三菩提式併行期)、沈線文の土器(土器胴体下半部)
遺構外	16	11	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(3.4)	褐色7.5YR4/4	良好	白色粒	前期末(諸磯C式～十三菩提式併行期)、沈線文の土器(土器胴体下半部)
遺構外	17	11	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(3.2)	にぶい赤褐色5YR4/3	良好	金色雲母	前期後半(諸磯b式)、縄文
遺構外	18	11	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(3.0)	褐色7.5YR4/4	良好	白色粒	前期後半(諸磯b式)、縄文
遺構外	19	11	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(2.9)	橙色5YR6/8	良好	長石・石英・金色雲母・赤色粒	前期終末、縄文、関西系か
遺構外	20	11	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(7.2)	明褐色7.5YR5/6	良好	長石	後期前葉、堀之内Ⅰ式
遺構外	21	11	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(4.4)	明赤褐色5YR5/6	良好	長石・雲母	後期前葉、堀之内Ⅰ式
遺構外	22	11	須恵器	瓶	口縁～頸部	(9.0)	—	(5.6)	灰褐色7.5YR5/1	良好		
遺構外	23	11	石器	打製石斧	ホルンフェルス	17.7	6.0	2.3				撥形
遺構外	24	11	石器	打製石斧	緑泥片岩	(5.8)	(6.3)	(1.1)				撥形
遺構外	25	11	石器	打製石斧	ホルンフェルス	(8.4)	(4.9)	(0.9)				撥形？

第５章　まとめ

今回の調査は山梨市日下部地区の農道改良工事に伴い遺構・遺物の記録保存を行うことを目的とした。日下部地区は笛吹川の扇状地にあり、緩やかな傾斜をもつ平坦な段丘面上にある。現在は市街地と周辺に広がる果樹畑、明治期でも集落の中に水田、桑畑、果樹園、草地などが広がっていたことが分かる（第１図）。日下部地区の下井尻に位置する発掘調査地の現状もモモなどの果樹畑である。国土地理院の地形分類によると、この段丘面上には笛吹川扇状地の扇頂部から扇端部に向かって、南北に十数条の浅い谷が形成されている。調査地点は塩山市の三日市場から山梨市上石森まで続く長さ５km、幅 30 ～ 100 mの細長い谷の中ほどに含まれている。谷としては浅く一見して認識しにくいのだが、扇頂部から扇端部まで通じた谷の端から端までの標高差は 110m にもおよぶ。

発掘調査区は西側に隣接して水路があり、30 ～ 40 m隔てた東側にも水路が流れている。この２本の水路に挟まれた範囲が浅い谷地形である。東側の雲光寺の建つ区画や調査区西側の果樹畑は一段上がるが、50cm 程度の段差であり、調査区が長い谷の中にあるとは認識し難い。しかし、農作業時には、雨が続くと水が集まる状況が認められたり、果樹畑以前の水田耕作時代にも周りの水田よりも水はけが悪かったなど、微地形による差が生じるとされる。（第 19 図、写真図版１）。

発掘調査では平安時代の竪穴６基（ＳＩ１～６）を検出した。道路用地である調査区は長さ 70 m、幅３mと南北に細長い形状をしており、遺構の検出範囲はいずれも部分的であるが、竪穴は６基とも三方向の壁面を検出した。１号竪穴では東壁南角にカマドを検出し、土師器の坏、脚高高台坏、皿のほかに、甕や羽釜も出土している。また、灰釉陶器の瓶や砥石が出土している。３号竪穴は１号竪穴の床一枚隔てた下から、ひと回り小さい竪穴として検出した。軸がやや異なるが建て替えや増改築という関係性も考えられる。なお、１号竪穴ではカマド内土壌の水洗選別を行ったが穀類の炭化種実は検出しなかった。２号竪穴は１号竪穴の南壁から 30cm 隔てた南側で検出した。重複関係はないが非常に密接した位置関係である。西壁、東壁は調査区外で未検出である。カマドも検出してはいないが、土師器坏、高台坏、鉢に加えて、甕、羽釜、置きカマドが出土している。１号～３号竪穴は住居址と考えられる。

４号竪穴と６号竪穴も重複しており、北東に１m平行移動して４号竪穴がより深く掘り込んでいる。多くは東側の調査区外へと続いているため、検出範囲は西側三分の一程度と狭く、出土遺物も少ない。カマドは検出していないが、４号竪穴では土師器の坏、脚高高台坏のほかに甕や羽釜も出土している。６号竪穴でも土師器坏、脚高高台坏とともに甕も出土している。４号竪穴、６号竪穴も住居址と考えられる。２号竪穴から南へ 10 mほど離れた位置である。更に南へ 10 mほど離れて５号竪穴を検出した。５号竪穴は単独遺構で、西側半分程度の範囲を検出した。出土遺物は少量で、土師器の坏、甕、砥石、磨石、台石がある。わずかに土器は出土したが、大形の石器が並べられている印象があり、作業場の可能性が考えられる。６基の竪穴からは 10 世紀後半から 11 世紀前半の土師器が出土していることから、当該期に集落があったと考えられる。

また、中世の溝１条（ＳＤ１）が出土した。溝は約 15 mに渡り検出し、砂礫層を伴い、遺物の摩耗が激しいことから流路であったと思われる。かわらけ (土師質土器)、内耳土器、常滑甕、青磁碗、天目茶碗、砥石が出土している。平安時代の土師器坏、羽釜、須恵器甕などの小片や黒曜石製の石鏃も出土しているが遺物包含層からの混入と思われる。また、近世の磁器碗や陶器三島手の皿などの破片も僅かに出土しているため、溝が埋まり切るのは近世であったと考えられる。溝の底面では土坑１基（ＳＫ１）を検出したが、遺物は出土していない。

また、風倒木痕（ＳＸ１）と遺物包含層からは縄文時代前期後半の諸磯式土器、前期末～中期初頭の十三菩提式併行の土器、踊場式系の土器、五領ヶ台式土器、後期前葉の堀之内式土器が出土しており、遺構は検出していないが周辺に縄文時代の集落があったことが示唆された。

周辺の調査として、農道改良工事に伴い平成 28 年度に阿弥陀堂遺跡、中沢遺跡、平成 29 年度に十王堂

遺跡が調査されている。また、北東と西に、それぞれ 500 mほどにのところに宮ノ前（七日子）遺跡と千手院前遺跡があり調査されている。縄文時代の資料としては七日子（廃寺）遺跡で縄文時代前期後半から中期初頭の諸磯Ｃ式土器、五領ヶ台式土器が出土している。宮ノ前遺跡では縄文時代中期初頭段階の資料、十王堂遺跡でも縄文時代前期後半の諸磯式期や後期前葉の堀之内式期の土器が出土している。千手院前遺跡では縄文時代後半の諸磯式土器、中期後半の曽利式土器、後期前葉の堀之内式土器が出土している。平安時代の資料としては阿弥陀堂遺跡の平成 28 年度調査地点で 11 世紀後半から 12 世紀代の竪穴住居が１軒検出されている。また、中沢遺跡では８世紀後半の竪穴住居が２軒、十王堂遺跡では９世紀代の竪穴住居が２軒検出されている。今回の調査ではその間の時期である 10 世紀末から 11 世紀初頭の遺構が６軒出土している。概観すると周辺一帯に平安時代の各時期の集落が広がっているように見えるが、今回の調査区は浅いため認識しにくいとはいえ、雨が降れば水が集まり、水はけも悪い谷の中にある。このような地形に竪穴住居が立地していたことは、集落あるいは集落内の位置づけに、どのような意味があるか検討の必要がある。

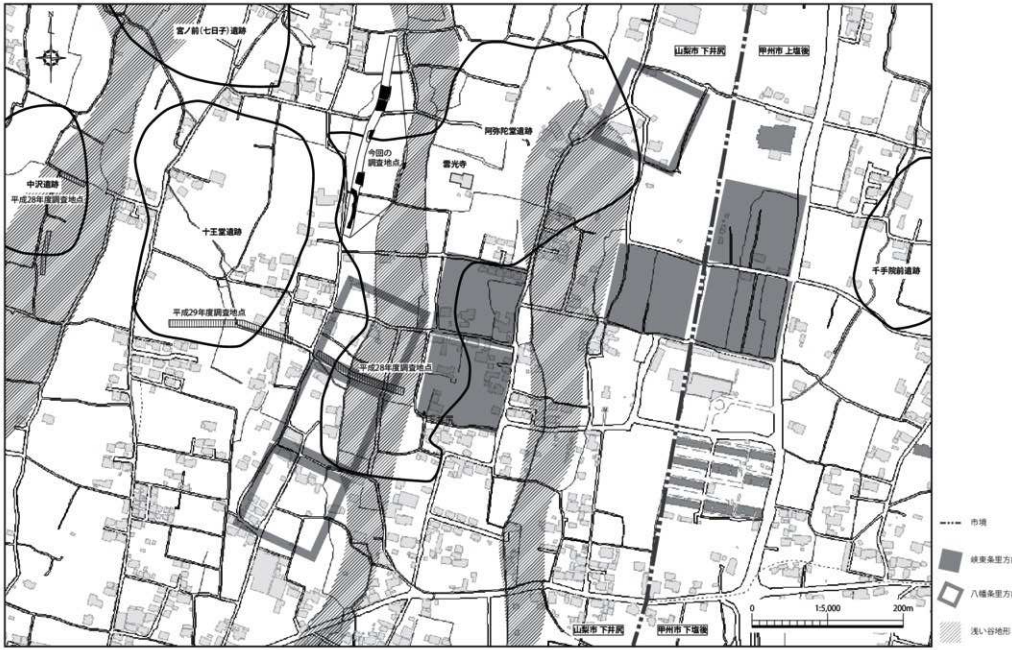
山梨市日下部地区は条里地割が認められる地域である。調査地の下井尻では峡東条里と八幡条里という地割の基軸が異なる、二つの条里が接し干渉し合っている。八幡条里は中世の安田氏による荘園の条里として成立し、安田義定の勢力下で 12 世紀初頭に古代条里である峡東条里の地割を再編したものという推定がなされている。調査地は安田義定が開基したとされる雲光寺と近接した位置にある。峡東条里の基軸線は一宮浅間神社と甲州市の扇山西端を結ぶ線とみられている。この基軸線は山梨市下井尻と甲州市塩山の上塩後・下塩後が接する市境と一致している。八幡条里の基軸線は八幡地区東端の窪八幡神社と西端の天神社を結ぶ線とみられている。第 19 図に示すように調査地周辺では道路、水路、地境として、この二つの異なる軸と一致する地割の痕跡が交錯して認められる。

今回の発掘調査で検出した遺構と比較すると、竪穴も溝も概ね軸方向が同一で、峡東条里の基軸と一致していると思われる。遺構の時期は竪穴が 10 世紀末から 11 世紀初頭で、溝が中世から近世と考えられる。更に調査区の西側に隣接する現在の水路も同一方向である。峡東条里以後に八幡条里が再編されたにもかかわらず、地下から検出した 10 世紀末の遺構から現在の表層地割までが、峡東条里と同じ方向で残存し続けていることは、新たに再編した荘園の生産性に影響を及ぼさなかったのか疑問が残る。同一条里内でも地目の違いなどで地割状況に多様性があるのだろうか。このことは収穫した耕作物を租税として徴収するという条里制の目的が変容していく表れとして考えることができるのだろうか。

また、調査地周辺では峡東条里と八幡条里の基軸が異なる一町方格（約 109 m）の残存地割を個々に抽出することが出来るが、「６町」四方に「36 坪」並ぶ「里」としての並びを見たときに斉一性があるか、あるいは一町方格の中での「段・坪」の並びが捉えられるような微地形があるかなどを今後検証する必要があると考える。

参考文献

山梨県　1998 『山梨県史　資料編１　原始・古代１考古（遺跡）』
山梨県　2004 『山梨県史　通史編１　原始・古代』
山梨県立考古博物館ほか　1998 『研究紀要 14』
山梨市　2004 『山梨市史　史料編　近世』
山梨市　2005 『山梨市史　資料編　考古・古代・中世』
山梨市　2005 『山梨市史　文化財・社寺編』
山梨市　2007 『山梨市史　通史編　上巻』
山梨市教育委員会　1995 『宮ノ前遺跡』
甲州市教育委員会ほか　2017 『千手院前遺跡』
山梨市教育委員会ほか　2018 『中沢・阿弥陀堂遺跡』
山梨市教育委員会ほか　2020 『十王堂遺跡』
神龍山雲光寺　1985 『雲光寺略史』



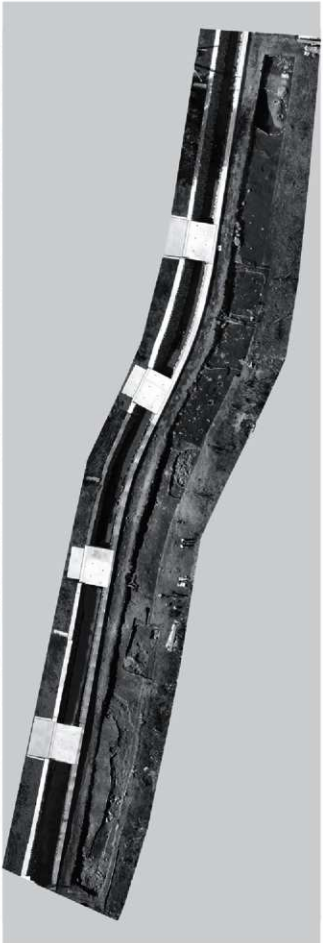
第19図　周辺の遺跡と条里地割

遺跡遠景　完掘状況　北から

遺跡遠景　完掘状況　西から

遺跡遠景　完掘状況　東から

遺跡遠景　完掘状況　南から



調査区全景　完掘状況　真上から（上が北）

図版２

調査前風景　地山礫層　南から

調査前風景　南から

表土掘削　重機作業風景　南から

遺物包含層検出状況　南から

遺物包含層掘削　遺物検出作業風景　北から

調査区北側　完掘状況　南から

調査区南側　完掘状況　北から

調査区南側　完掘状況　南から

1 号竪穴　土層堆積状況　西から

1 号竪穴　遺物出土状況　北から

1 号竪穴　遺物出土状況　南から

1 号・3 号竪穴　柱穴検出作業風景　北から

1 号竪穴　カマド検出状況　西から

1 号竪穴　カマド土層堆積状況　北から

1 号竪穴　カマド遺物出土状況　西から

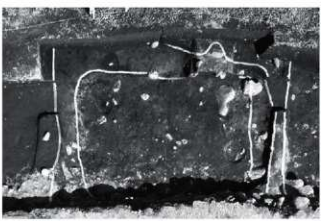
1 号竪穴　カマド支柱痕検出状況　西から

図版4

1号竪穴　カマド完掘状況　北から

1号竪穴　カマド完掘状況　西から

1号竪穴　カマド完掘状況　東から



1号・3号竪穴　完掘状況（床面）　西から

1号・3号竪穴　掘り方検出状況　北から

1号・3号竪穴　完掘状況（掘り方）　西から

2号竪穴　遺物出土状況　北から

2号竪穴　遺物出土状況　北から

2号竪穴　完掘状況　北から

4号・6号竪穴　土層堆積状況　南から

4号・6号竪穴　土層堆積状況　北から

4号・6号竪穴　完掘状況（床面）　東から

4号・6号竪穴　完掘状況（床面）　北から

4号・6号竪穴　完掘状況（掘り方）　北から

5号竪穴　土層堆積状況　西から

5号竪穴　土層堆積状況　北から

図版6

5号竪穴　遺物出土状況　南から

5号竪穴　遺物出土状況　北から

5号竪穴　完掘状況（床面）　西から

5号竪穴　完掘状況（掘り方）　西から

5号竪穴　完掘状況（掘り方）　北から

5号竪穴　掘り方面地山礫層確認状況　西から

1号溝　検出状況　南から

1号溝　土層堆積状況　南から

1 号溝　土層堆積状況　西から

1 号溝　遺物出土状況　北から

1 号溝　完掘　南から

1 号土坑　完掘　南から

1 号風倒木痕　検出状況　南から

1 号風倒木痕　土層堆積状況　西から

1 号風倒木痕　半截状況　南から

1 号風倒木痕　遺物出土状況　南から

図版8

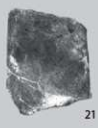
1号竪穴

1号竪穴

18

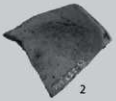
19

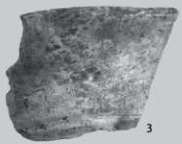
20


21

2号竪穴

1


2


3

4

5

6

7

8

9

10

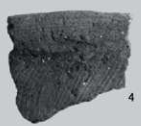
11

3号竪穴

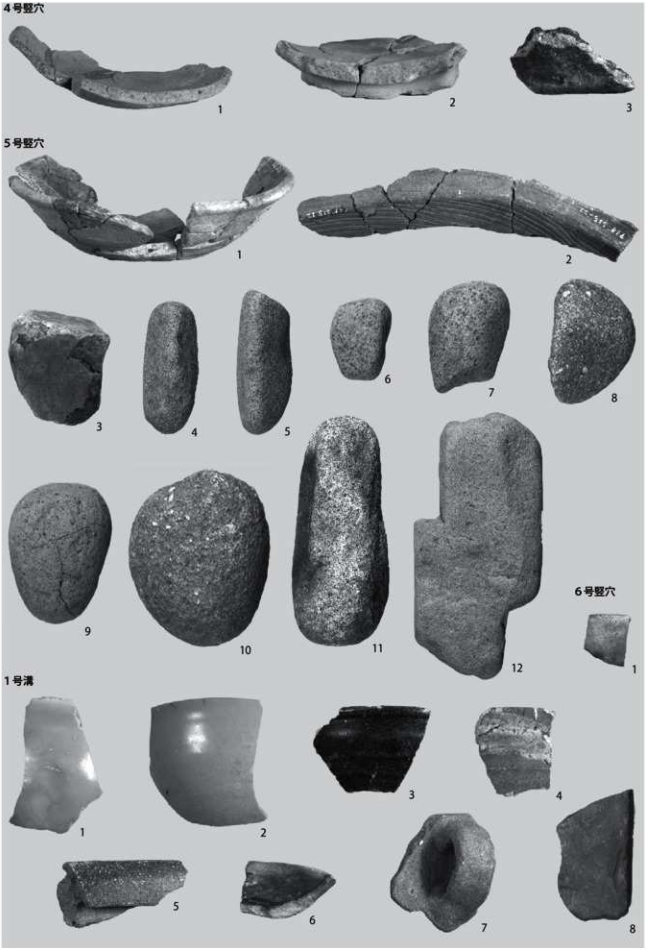
1

2

3

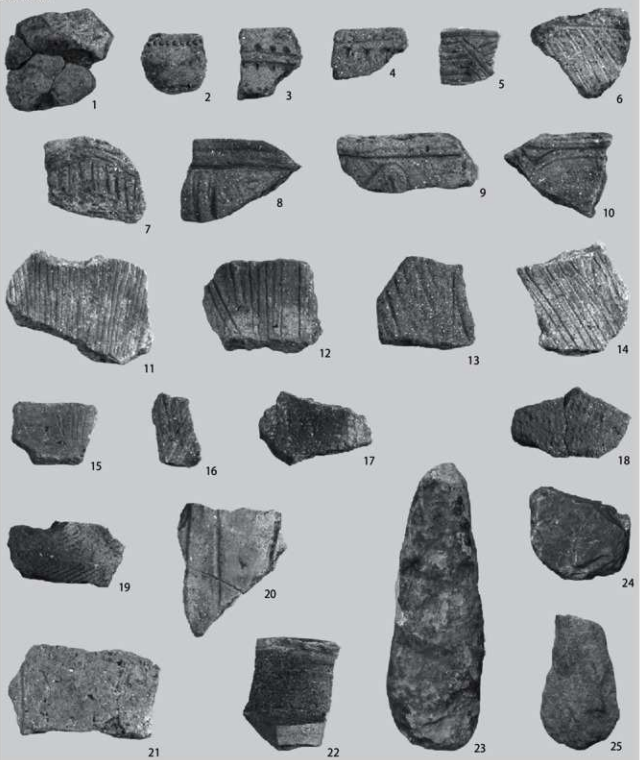

4

図版 10



1号風倒木痕

遺物包含層



報告書抄録

ふりがな	あみだどういせき
書名	阿弥陀堂遺跡
副書名	県営畑地帯総合整備事業　日下部地区農道３号（１工区）改良工事に伴う発掘調査報告書
編著者名	駒田真人（山梨市教育委員会）/ 髙野高潔・藤巻浩太郎（昭和測量株式会社）
編集機関	山梨県峡東農務事務所 / 山梨市教育委員会 / 昭和測量株式会社
所在地	〒404-8601　山梨県甲州市塩山上塩後 1239-1　℡0553-20-2706 〒405-8501　山梨県山梨市小原西 843　℡0553-22-1111 〒400-0032　山梨県甲府市中央 3-11-27　℡055-235-4448
発行年月日	西暦　2021（令和３）年　２月 26 日

ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号				(㎡)	
阿弥陀堂遺跡（あみだどういせき）	山梨県（やまなしけん） 山梨市下井尻（やまなししもいじり） 690-3 外	19205	05095	35°42′23″	138°42′30″	20200401 ～ 20200513	175	農道基盤整備事業（農道）

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
阿弥陀堂遺跡	散布地	縄文 平安 中世	竪穴住居 溝、土坑	縄文土器、石器、 土師器、須恵器、灰釉陶器、 土器、青磁、陶器	

山梨市文化財調査報告書　第 39 集

阿　弥　陀　堂　遺　跡

－県営畑地帯総合整備事業　日下部地区農道３号（１工区）改良工事に伴う発掘調査報告書－

発　行　日　令和３年２月 26 日

編　　集　昭和測量株式会社

〒400-0032　山梨県甲府市中央 3-11-27　℡055-235-4448

発　　行　山梨県峡東農務事務所

山梨市教育委員会

昭和測量株式会社

印刷・製本　株式会社内田印刷

〒400-0032　山梨県甲府市中央 2-10-18　℡055-233-0188